

「朝鮮学報」第134輯 別刷  
平成2年1月刊  
(1990)

<할것이다>の研究  
——再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって——

野間秀樹

## <할것이다>の研究 —再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって—

野 間 秀 樹

【要旨】 현대한국어의 用言形式<-ㄹ것이다> 즉 <할것이다>의 용법과 의미를 실증적으로 고찰한다. 본 연구는 필자의 “<하겠다>의 研究”(1988)에 이어지는 것으로서, <하겠다>와 아울러 현대한국어의 mood에 관한 연구의 중요한 과정의 하나이다.

제 1 장에서는 우선 先行語研究에 언급한 후, “<하겠다>의 研究”(1988)에서 밝힌 modality와 mood에 관한 기본적인 立脚點을 재확인했다. 즉 ①문장은, 서술의 소재로서의 <事態>를 나타낼 때 동시에 話者의 주관적인 <態度>를 나타낸다. ②事態를 언어적으로 표시한 것을 <命題>라고 하고 話者의 주관적인 태도를 나타내는 문법범주를 <modality>라고 규정한다. 나아가서 ③modality는 문장론에 있어서의 개념이고 mood는 용언의 형태론적인 범주로 취급한다. 따라서 mood는 modality의 일부를 이루는 것이다. ④modality에는 事態에 대한 話者の 태도를 나타내는 <對事態 modality (event-oriented modality)>와 聽者에 대한 話者の 태도를 나타내는 <對聽者 modality (hearer-oriented modality)>의 두 가지가 있다는 점 등이다.

제 2 장에서는 <할것이다>를 여러 각도에서 검토, 다음과 같은 사실들을 밝혔다. ①<할것이다>는 話者の 상상에 의해 그려진 상황이 發話의 전제가 되는 경우가 많다. 특히 接續形<-면>과 共起하는 비율이 높다. 그리고 ②聽者가 主體 (主語와는 구별되어야 함) 가 되는 <할것이다>는 매우 적으며 第三者를 主體로 하는 것이 많다. ③용언의 품사나 종류에 관계없이 <할것이다>는 언제나 <推量>의 뜻을 지니고 있다. ④過去接尾辭와의 관계에 있어서는 <했을것이다> 이외에도 <할것이었다>라는 형식이 간혹 쓰여지고 있다. ⑤부사 <아마> <불길없이>를 수반하는 비율이 높은 것으로 미루어 <아마……할것이다>는 한국어의 전형적인 추량의 형식이라고 볼 수 있겠다.

제 3 장에서는 의지·의문이라는 두 각도에서 <할것이다>의 mood를 고찰했다. <의지나 추량이냐>라는 兩者擇一的인 사고방식은 적합치 않

은 것임을, 따라서 <한것이다>는 一元的으로 파악될 수 있음을 논했다. 또 <한것이다>의 疑問文은 <하겠다>에 비해서 매우 적으며 또 反語로 시의 용례도 아주 적다는 사실에 언급했다.

제4장에서는 <한것이다>의 문장은 같은 문맥 안에서 <하겠다>와 마치 놓을 수 있는가를 검토하면서 다른 용언형식과의 대립 안에서 <한것이다>의 mood를 고찰했다. 하나의 문장뿐만 아니라 text 층 전후의 문맥까지 고려하면 <하겠다>나 <한다>로 마치 놓을 수 있는 <한것이다>는 아주 적다. 話者를 顯在化시키는 일 없이 主體를 <지금·이곳>이란 發話의 現場에 없는 것으로서 상상하면서 對象화하여 개관주의적으로 말한다는 對事態 modality에 있어서의 이러한 구실은 모든 <한것이다>에 공통되어 있다. 主體에 관한 非現場的事態를 추양하는 것, 이것이 <한것이다>의 mood이다. 對聽者 modality에 있어서는 聽者에게 의지를 표명한 경우도 있고 <지금·이곳>에서 확인 못하는 事態를 聽者에게 제기하여 설명·설득을 하거나 타이론다는 기능을 가지는 수도 있다. <한것이다>의 문장이 일반적으로 긴 것이 많다는 사실도 이러한 <한것이다>의 성격이 드러난 것이라고 본다.

이상의 <한것이다>의 모든 성격은 <하겠다>의 성격과는 매우 對照的이다. <하겠다>는 어디까지나 <지금·이곳>이란 發話의 現場에 있어서의 將然의이고 절박한 판단이며 그것도 그 發話가 話者自身의 주관적인 판단이라고 話者自身를 顯在化시키면서 말하는 것이기 때문이다.

이리하여 <蓋然推量>으로서의 <한것이다>는, 野間秀樹(1988)에서 제기한 바와 같이 <將然判断>인 <하겠다>, <既然確言>인 <한다>와 mood에 있어서 서로 대립하고 있다는 것을 확인할 수 있다.

## 0.はじめに

- 0-1. 研究の目的と対象
- 0-2. 研究の方法と研究に用いた言語資料
- 0-3. 問題の設定
- 1. 研究の前提
  - 1-1. 先行諸研究における 할것이다
  - 1-2. 모ダリティとムード
- 2. 할것이다はどのように実現されるか
  - 2-0. 用例の検討にあたって
  - 2-1. 発話の前提条件と 할것이다
  - 2-2. 事態の主体と 할것이다

## <한것이다>の研究(野間)

(3)

- 2-3. 用言の種類と 할것이다
- 2-4. 過去接尾辞と 할것이다
- 2-5. 副詞と 할것이다
- 3. 할것이다はどのようなムードか(1)意志と疑問
  - 3-0. 할것이다をモダリティから見る
  - 3-1. 意志と 할것이다
  - 3-2. 疑問と 할것이다
- 4. 할것이다はどのようなムードか(2)할것이다と하겠다
  - 4-0. 할것이다と하겠다
  - 4-1. 話し手が主体の場合の 할것이다
  - 4-2. 聞き手が主体の場合の 할것이다
  - 4-3. 第三者が主体の場合の 할것이다
  - 4-4. 할것이다のムード
- 5. おわりに
  - 5-1. 要約
  - 5-2. 講題

## 0.はじめに

### 0-1. 研究の目的と対象

本稿は、現代朝鮮語の用言形式Ⅱ-己<sup>(1)</sup>것이다の用法と意味を明らかにすることを目的とする。この形式は、<連体形語尾Ⅱ-己+不完全名詞 것+指定詞-이다><sup>(2)</sup>という構成をとる分析的な形で、ここではこの構成全体を一つの文法形式と考えている。<sup>(3)</sup>用言をハサで代表させて以下この形式を 할것이다と表記することにする。本稿は、先の野間秀樹(1988)『<하겠다><sup>(4)</sup>の研究』に続くものであって、하겠다の研究・ 할것이다の研究とあわせて現代朝鮮語の用言のムード形式の全体像を記述するための道程として考えられるべきものである。

ここで対象とする形式は具体的には次の通りである：

平叙形	疑問形
할것입니다	할것입니까？
할겁니다	할겁니까？

할것이에요	할것이예요?
할거에요	한거예요?
할건데요	
할것이오	
할거요	
할건데	
	할것인가?
	할건가?
할거야	할거야?
할것이다	할것이냐?
할기다	

## 0—2. 研究の方法と研究に用いた言語資料

研究にあたっては、まず具体的な言語資料から 할것이다の用例を収集し、それらの用例をひとつひとつ検討しながら分類し、母語話者の助けも得つつ考察してゆくことにした。基本的には収集した用例を中心にし、考察の過程で必要な場合のみ作例をもあわせて用いることとした。資料は70年代以降に韓国で出版された書籍を対象とした。末尾に一覧を付す。

## 0—3. 問題の設定

考察を進めるにあたって次のような問題を立てることができる。

これまでの諸研究については：

- (1) これまで 할것이다はどのように把握されてきたか
- (2) 先行諸研究は何を明らかにし、何を明らかにし得ていないのか  
という点をまず確認する。その上で：
- (3) 할것이다はどのような条件のもとでいかに実現されるか  
という観点から具体的に用例を觀察せねばならない。また、そうした觀察には：
- (4) 하겠다など他の諸形式とは何が同じで何が異なるのか  
という問題が重要な中心課題の一つとなろう。最後に：

- (5) 할것이다はどのように規定しうるか  
について総括することにする。

## 1. 研究の前提

## 1—1. 先行諸研究における 할것이다

할것이다が一つの大きな研究対象として研究者たちの意識にのぼってきたのは하겠다と 할것이다との違いが問題となった70年代以降であった。 할것이다が分析的な形であるためか、それ以前は文法書や辞書の中でもほとんど積極的には触れられていない。<sup>(8)</sup>他の多くの文法事項を幅広く扱っている崔鉉培の『우리말본』(37; 71)などでも 할것이다については何も述べられなかった。

70年代以前の 할것이다の伝統的な解釈例としてここでは一つだけ振り返ってみることにする。

## 1—1—1. 『조선말사전』(62)の見解

『조선말사전』(62)でも 할것이다全体を一つの用言形式と見ているわけではない。 할것이다は不完全名詞の見出語のもと、二つの小項目で扱われている。一つの小項目では 할것이다를 할것이다·하는것이다·하던것이다と同列に扱っており、「既に前で語られた事実に対する確信を表す」とされ、次の用例があがっている：

(9)  
1001) 김 일성 동지가 제시한 전망 계획을 완수하는 그 때에는 사회주의의 건설은 완성되고 사회주의로부터 공산주의에로 점차 이행하는 과정이 제기될 것이다.

金日成同志が提示した展望計画を完遂するその時には社会主義の建設は完成し、社会主義から共産主義へ徐々に移行する課題が提起されるであろう。

いま一つの小項目は 할것이다のみを述べたもので、「推測を表す」とされている。用例は次のとおりである：

1002) 저 산 너머는 지금 비가 올 것이다.

あの山の向こうは今雨が降っているだろう。

しかしこの二つの小項目の違い、分類の根拠などは不明である。

#### 1—1—2. 70年代以降の諸見解

70年代も後半になって、하겠다をめぐる論争の中で徐正洙(77)(78)・成善徹(79)から할 것と겠との比較という形で하겠다と할 것이다との違いが問題にされはじめた。徐正洙(78)は同じく「冠形詞形」+「依存名詞」としての것という形ではあっても「먹을 것(=사파)이다」のようなものは文法形式としての할 것이다から区別するべきだとした。これは日本語でなら「食べるもの(=りんご)である」と訳せるたぐいのものであって当然区別されるべきものである。本稿でもこれを支持し、ここでは考案の対象から除外してある。こうした手続きの上で徐正洙(78)は「推定」・「意図」を할 것이다の主要な意味としてあげている。

成善徹(79)は、現在の経験に判断の根拠をおいた推定が-겠-、つまり하겠다であるのに対し、過去の経験に判断の根拠をおいた推定が-을 것이다-、つまり할 것이다なのであるとした。

韓国におけるこれらの諸研究はどれも論者の作例に基づくものであって、広範な用例の検討はなされていないことが特徴的である。

할 것이다のみを対象に据え、多くの具体的な言語事実から積み上げた本格的な研究はそれ以後も現れていない。韓国の研究者たちによって할 것이다の姿が少しずつ見えてきたとはいえる、할 것이다がどのように用いられ、どのような意味を実現するかということ、さらに広く朝鮮語の用言のムードの全体像の中で할 것이다がどのような位置を占めるのかということは未だ明らかになっていないのである。

さらにまた할 것이다と他のムード形式、特に하겠다との違いは、日本においては朝鮮語教育にたずさわる人々の間でさえその理解について混乱が見られ、朝鮮語教育上の大問題ともなっている。할 것이다についてはまだまだ研究途上にあると言え得るのである。

#### 1—2. モダリティとムード

野間秀樹(88)ではモダリティとムードに関して次のように規定しておいた。할 것이다の考案に先立って、あえて重複を厭わず、ここで簡単に再確認しておくことにする。

一般的の文においては、叙述の素材としての<事態>が表されると同時に、話し手の主観的な<態度>があわせて示されるという二つの側面が認められる。日本語を例にとるとならば：

雨が降るだろうね。

という文においては、おおまかに言えば一方で：

<雨が降ル>

という事態が描かれ、他方で、そういう事態に：

<ナルグロウネ>

という話し手の主観的な態度が示されている。つまり：

文は<事態>と<態度>とをあわせ持っているわけである。

<雨が降ル>のように、事態を仮に言語的に表したものと<命題 proposition>と呼び、話し手の主観的な態度を表す文法的な範疇を<モダリティ modality>と呼ぶ。

文 sentence	
命題 proposition 事態を表す	モダリティ modality 話し手の態度を示す

このようにモダリティを文論における範疇として考えるのに対し、他方ムードは用言の形態論的な範疇として考えることにする。話し手のある特定の態度が、用言において形態論的に一定の形式となって、用言の他の形式とパラディグマティックな対立をなして現れるときに初めて、ムードという範疇で論ずるのである。結局、ムードはモダリティの一部をなすことになる。

文のモダリティ

用言のムード

更に、モダリティには二つの側面があることを指摘した。事態に対する話し手の態度を示す<対事態モダリティ>と、聞き手に対する話し手の態度を示す<対聞き手モダリティ>である。

文の モダリティ	●対事態モダリティ=命題を判断するモダリティ 事態に対する話し手の態度が示される
	●対聞き手モダリティ=聞き手に働きかけるモダリティ 聞き手に対する話し手の態度が示される

その上で、하겠다をめぐる<意志か推量か>という問いの立てかたは誤っているのだということを述べた。<意志を表明する>ことは対聞き手モダリティに属することからであり、<事態を推量する>ことは対事態モダリティに属することからであって、この両者は同じ平面上で扱われる性質のものではないからである。

意志……対聞き手モダリティ

推量……対事態モダリティ

なおかつ하겠다は推量ではないことを述べ、<将然判断>という対事態モダリティにおいて統一的に把握できることを論じたのであった。

하겠다の研究に用いた以上のような枠組みは、そつくりそのまま할것이다の研究にも適用されるべきだと考える。以上は今後の記述の前提となるものである。

2. 할것이다はどのように実現されるか

## 2-1. 用例の検討にあたって

第1章で述べたように、具体的な用例を具体的に検討するのが本研究の基礎である。ここでは主に次のような点に着目することにする。

한것이다を含む文の前提条件をまず見る：

- (1) 発話の前提条件はどうなっているか

その上で述べられる命題に着目する：

- (2) 命題における行為や状態の主体は何か、話し手か聞き手か
- (3) 할것이다形になっている用言の品詞は何か、何かしら語論的条件があるのか
- (4) 用言にいわゆる過去の接尾辞<sup>(11)</sup>-ㅆ-などの形態論的な指標を持っているか

(5) 副詞など、他の語との共起性はどうなっているか  
さらにモダリティを見てゆく：

- (6) 対事態モダリティにおける할것이다の役割は何か
- (7) 対聞き手モダリティにおける할것이다の役割は何か

以上を検討する際には常に：

- (8) 하겠다・한다・할것 같다等、他の形式で言い替えることができるか  
ということを併せて考える必要があろう。

この第2章では以上のような点に留意しつつ、할것이다の実現のしかたをめぐるいくつかの問題を見てゆくこととする。

2-1. 発話の前提条件と할것이다

하겠다の研究においても同様であったように、これまでの諸研究では文脈抜きの単独の文を材料にしてあれこれ論じられることが多かった。しかし前後の文脈を抜きにして「비가 올 것이다」(雨が降るだろう)のような孤立した文のみをあれこれ考へるのは危険である。特に、モダリティやムードという、話し手の気持ちのひだまでわけ入って観察せねばならない

文法範疇を扱う際にはなおさらのことである。このことは例えば、「잘 안 보이실 거예요.」(よくお見えにならないと思いますよ)などという文一つをとってみてもよくわかる。無論意味は変わるがこの文だけなら「잘 안 보이시겠어요.」(よくお見えにならないでしょうね)のように하겠다形でも言い替えが可能だし、「잘 안 보이세요.」(よくお見えになりません)のように한다形でさえ言い替えが可能である。しかしながら実際に次のような文脈が与えられると母語話者たちは 할것이다を選ぶのである:

2101) “아, 난지도요? 저어쪽에 보이는 셋길로 푸욱 가시면 돼요. 저 여기 안 보이세요. 저어기가 난지도예요.” 노인은 다시 손바닥을 이마에 대더니 눈을 깜박거리며 꼬두발을 썼다. “잘 안 보이실 거예요. 저 뿐영개 보이는 저쪽으로 푸욱 가시면 나오니까 가보세요.” 군인은 길을 묻는 노인보다는 전녀편에 서 있는 소녀 쪽에 관심이 있는 듯 힐끗힐끗 건너다보면서 진성으로 손가락질을 하며 쪽 가라는 말만 되풀이했다.

<以上譯/난지도의 말>

「あ、蘭芝島ですか。あっちに見える肠道をずっとお行きになればいいですよ。あそこに見えませんか。あそこが蘭芝島です。」老人は再び手を額にかざして目をぱちくりさせながらつまさき立ちをした。「よくお見えにならないと思いますよ。あのぼんやり見えてるあっちの方にずっとお行きになれば見えますから行ってみてください。」軍人は道を尋ねている老人より反対側に立っている少女の方に关心があるかのようちらちらと見やりながら上の空で指差しつづつと行けということばかり繰り返した。

前後の文脈が与えられるやいなや하겠다や한다でなくなぜ 할것이다が選ばれるのかというメカニズムを解明するにはどうしても 할것이다の文のみを単独で見るだけでは足りないのである。それゆえ、本稿では用例を引用する際に 할것이다の用いられた一つの文のみならず、テクストごと、前後の文脈がわかるように引いたうえで検討することにした。

発話の前提条件というこうした観点から見てゆくと、 할것이다には하겠다では見られなかった大きな特徴が見いだされる。それは ॥-면 (~すれ

ば), つまり 하면の形式の接続形が 할것이다を含む文に多用されるという点である。한다번·했다면·했으면という形式まであわせた、この ॥-면と共に起する 할것이다の頻度は、例えば A 5 判 276 ページの長編推理小説『第3回 情死』の場合で하겠다と比較してみると次のとおりである:

	할것이다	겠다
終止形の用例	115例 (100.0%)	149例 (100.0%)
॥-면と共に起するもの	31例 (27.0%)	13例 (8.7%)

全 115 例の 할것이다のうち ॥-면と共に起する例は 31 例、27.0% にのぼっている。この 27.0% という数字は共起関係を表す数字としては驚くべきであって、 할것이다 の発話の 4 分の 1 以上が <……하면……할것이다> (…すれば……するだろう; ……ならば……だろう) という、何らかの条件を言語上で 할것이다 の直前に提示した発話となっているのである。テクストのジャンル、事態の主体や用言の品詞、過去接尾辞の有無などにかかわらずまんべんなくこの ॥-면 の形式は 할것이다 と共に起している。例を見てみよう:

2102) “만일 청미를 영영 찾지 못하게 되면 누님의 가정은 그대로 누너 쳐 버리고 말 것입니다.” <金聖鍾/悲恋의 火印>

「もし チョンミ をずっと 捜し出せなくなったら 姉さんの家庭は このままがたがたになってしまふと思ひます。」

2103) “그러면……다시는 경기를 못할까요?” “글쎄요……그 사람은 복서니까 글리브를 끼고 하는 시합이라면 아무 관계가 없을 것입니다.”

<高麗英/대야방 2>

「それでは……二度と競技はできないんでしょうか?」「そうですね……彼はボクサーだからグローブをはめてやる試合なら何の支障もないでしょう。」

2104) “그래서 이쪽 남자와의 사랑을 성취시켜 놓는다면, 그것은 시장님의 명예와 승리가 될 겁니다.” <이강백／호모 세파라투스>  
 「それでこっちの男との愛を勝ち取っておくなら、それは市長の名譽と勝利になることでしょう。」

2105) “난 학교 졸업하면 돈을 벌거야. 무진장하게 돈을 벌거야.” <崔仁浩／바보들의 行進>  
 「俺は学校を卒業したら金を稼ぐんだ。めちゃめちゃ金を稼ぐんだ。」

2106) “5년전 저는 젖먹이와 같았지요. 그때였다면 기꺼이 응했을 거예요, 누군가가 정말 필요했었으니까.” <金淑賢／언 빛, 그 소리>  
 「5年前、私は乳飲み子も同然でしたわ。あの時だったら喜んで応じたと思います。誰かが本当に必要でしたから。」

このように、<これこれならこうだろう>とか<これこれだったらこうする>という、何らかの条件を提示しながら話し手が推し量って述べるのに 할것이다が好んで用いられているのである。

II-면의あと<sup>(13)</sup>のあの 할것이다は하겠다・한다で言い替えにくいものが多いようであるけれどもすべてがそうとは限らず、 II-면 という形態論的な指標のみで言い替えの可否を機械的に判断することはできない。

할것이다に対して<専然判断>としての하겠다は、今・ここでの話し手の体験や情報が根拠となって述べられる点が大きな特徴であって、発話の前提条件というこうした点で 할것이다と性格を異にしている。例えば：

2107) “가서 주무세요. 주무시고 나면 기분이 훨씬 좋아질 거예요.”  
 <洪承疇／運命의 날의 時計>  
 「行ってお休みください。お休みになったら気分がずっと良くなると思<sup>(13)</sup>ますよ。」

というような発話では하겠다は用いにくい。「가서 주무세요」(行って

お休みください)と指示しておいてから「주무시고 나면」(お休みになつたら)と発話の現場とは離れたことを前提条件に提示しつつ話し手が自分の考えを順序よく展開してゆく、こうした述べかたには하겠다でなく 할것이다が最適なのである。하겠다は次のようなタイプの前提条件の際に用いられる：

2108) 저녁을 사 출 테니 나오라고 하자 허 걸의 아내는 처음에는 어리둥절한 기색이더니, “웬 일이세요? 해가 서쪽에서 뜨겠네요.” 하면서 몹시 기뻐했다. <金聖鍾／悲恋의 火印>  
 夕食をおごってやるから出て来いというとホゴルの妻は始めはきょとんとした様子であったが、「どうしたんですか？ 太陽が西から昇りそうですね。」と言ってひどく喜んだ。

ここではホゴルの妻は自分で前提条件を提示しつつ自分の考えを展開しているのではない。どこまでも発話の現場、今・ここでの聞き手の言動に触発されて太陽が西から昇りそだと言っているのである。ここで用いられている I-네요 という語尾は話し手が何か新しいことを発見したり新たな体験や情報を得た際にやや詠嘆的述べる語尾であって、この語尾 I-네요 からしてそもそも 할것이다とは承接しないことにも注意したい。現場における新しい発見や体験に基づいた I-네요 の述べかたと 할것이다の述べかたとは矛盾するからである。いま一つ하겠다の例を参考にしたい：

2109) 손님 세 사람은 자리를 털고 일어났다. 맨먼저 밖으로 나섰던 사람이 목덜미를 움츠리고 손바닥을 내밀어 보며 말했다. “어라 한 방울 떨어졌어. 를림없이 비가 오겠군.” 바다 위의 하늘 속에서 번개가 번쩍였고, 투정하는 아이의 불멘 소리 같이 천둥이 울었다. 바람이 세차게 불어오고 있었다. <黃暫煥／客地>  
 三人の客は席を立った。真っ先に外に出た者が襟首をすぼませ掌を突き出してみて言った。「そら、一粒落ちた。間違いなく雨が来るぞ。」海の上の空の中で稻光が光り、むずがる子供の言い草のように雷が鳴った。風が

強く吹いてきていた。

ここでも母語話者たちは 할것이다ではなく 하겠다を選ぶ。「어라 한 방울 떨어졌어」(そら、一粒落ちた)という前の文でわかるように、話し手は発話の現場、今・この状況を根拠にして雨が降るという切迫した事態を語っているのであって、現場に切迫したこのような事態にはやはり将然判断の 하겠다がふさわしいのである。

この発話の前提条件に関して、徐正洙(78)は「'ㄹ 것'は一般に客観的な根拠をもとにした推量を表し、'겠'は話者の主観をもとにした推量を表す」と述べている。しかしながら上の 하겠다のように、雨が一粒落ちるのを掌で確認するのが「主観をもとに」しているとは決めがたいし、「行って休め」と指示しておいてから「休めば気分が良くなる」と 할것이다で述べるのが「客観的な根拠をもとに」していると決め付けるわけにはゆかないであろう。「あの時だったら喜んで応じただろう」と自分のことを 할것이다で語るのも「客観的な根拠をもとに」していると言いがたい。また、成善徹(79)は「'-을 것이다'は過去の経験に根拠をおいた推定」であり、「'-겠-'は経験当時、即ち現在の経験に判断の根拠をおいている推定」としている。この見解もまた正鶴を射ていると言いがたい。「休めば気分が良くなる」と 할것이다で述べるのが過去の経験に根拠をおいていると言えるのであれば、2109) の 하겠다のように雨が一粒落ちたことから雨が降ると考えるのも過去の経験に照らし合わせていると言うべきであろう。そもそも「過去の経験」を云々するのであれば、「推定」だの「推量」だのという喩みは、推定したり推量したりする人の個人史のすべての体験が少なからず関わっていると考えるのが常識にかなっていよう。 할것이다と 하겠다の発話の前提条件の違いはもっと別なところにあるのである。

今一度 할것이다の発話の前提条件について本稿で明らかにしたところを要約しておく。 할것이다は何かしらの条件、特に話し手が自分で提起した条件を提示しておいてから述べるのに好んで用いられ、そのことは、とりわけ ॥-면 という形式とかなりの確率で共起していることに事実としてはっきりと現れている。この共起関係は<……하면……할것이다> (……す

れば……するだろう；……ならば……だろう) という、<条件推量>とも言うべき一つの類型をかたちづくっていると言ってよい。この ॥-면 との共起に典型的に現れているように、 할것이다は話し手自身が頭の中でなにがしかのことを描き出しながら自分の考えを展開しつつ、客観主義的に推し量って述べるのに用いられる傾向があると言えるであろう。これは 하겠다が今・この発話の現場に直面し、現場から触発されて行なう将然判断であるのと対照的である。一般に 할것이다の文は長い文が多いのに対し、 하겠다の文は短いものが多いが、このこともこれまで述べたことの一つの現れだと見ることができる。

例えば『第3의 情死』では、次の表のように、 하겠다の文のうち一語文が<sup>(15)</sup>13.4%，一語文から三語文までをあわせると44.3%を占めている。 할것이다では一語文から三語文までをあわせてもわずか6.1%にしか過ぎない。

	할것이다	겠다
一語文	0例 (0.0%)	20例 (13.4%)
一語文から三語文までの累計	7例 (6.1%)	66例 (44.3%)

い。ともかく、 하겠다が現場内での体験や情報を契機にした発話であり、 할것이다がいろいろ条件を提示したり話し手自身があれこれ展開しながら説明的に語る発話であることをこの結果は裏付けてくれるのである。

発話の前提条件に 할것이다と 하겠다など他の諸形式との間に以上のような違いがあるとはいえ、 할것이다を用いるか하겠다にするか、あるいは한다など他の形式を用いるかという選択は発話の前提条件のみで決まるわけではない。換言すれば、発話の前提条件のみを見て次に 할것이다が来るのか하겠다が来るのかということを一概に判断することはできない。これまでの諸研究でもしばしば取り上げられたごとく、次のように、 하겠다や한다で言い替え得る 할것이다の例が存在するからである：

2110) “그보다도 운이 좋았던 거야.” “그걸 운이랄 게 있나.” “아냐… …미스터 강이 어젯밤에 용케 그 권총강도를 만났던 것도 운이 좋아서

가 아니겠나? 게다가 어제사 말구 공교롭게도 그 강도놈의 권총이 고장나서 한 방도 쏘지 못했다는군. 그러나 얼마나 운이 끼었느냐 말야. 살 불리 잘못 멈렸다간 목숨이 달아나는 판에……” “그야 운도 있긴 있을 거야. 만일에 운이 없었던들 난 내 성격과는 엘토당토않은 형사가 되진 않았을 테니까. 하긴 내 운은 별로 탑탁치 않은 것 같네만……” <河有祥／生活記>

「それよりも運が良かったんだよ。」「ああいうのを運って言うのかね。」「いや……カンさんが昨日の夜、うまい具合にあの拳銃強盗に出くわしたのも運が良かったからじゃないか。それに昨日は折よくその強盗の奴の拳銃が故障して一発も撃てなかつたってんだよな。だからどんなにか運が良かったことか。下手にとびかかってたら一巻の終わりってところだぞ。」「そりやあ運もあることあるだろうさ。もしも運がなかつたら俺は自分の性格からするとおかど違いの刑事なんかならなかつたろうからな。て言つたって俺の運だってたかが知れてるようなもんだがな……」

ここでは「있겠어」でも「있어」でも言い替えが可能である。結局のところこうなると発話の前提条件のみで 할것이다를 하겠다や한다など他の諸形式から完全に区別だてることはできないということになる。考察はどうしても 할것이다를含む文そのものへと入ってゆかねばならないのである。

## 2—2. 事態の主体と 할것이다

할것이다で述べられる文そのものを見るとき、事態の主体を、話し手・聞き手・第三者の三つに分けて観察してみると、どのタイプも存在しているけれども聞き手が主体のものは極めて少ないことがわかる。先の『第3の情死』の場合を見ると次のとおりである：

	할것이다		하겠다	
	全体での比率	平叙文での比率	全体での比率	平叙文での比率
話し手が主体の文	27.8%	27.3%	64.4%	82.4%

聞き手が主体の文	4.3%	2.7%	20.1%	9.3%
第三者が主体の文	59.1%	58.3%	15.4%	8.3%

할것이다は推量ではないかという仮説に照らし合わせてみると、聞き手が主体の文が少ないと、こうした傾向は意味があるようと思われる。 할것이다가事態を推し量って述べるものだとするなら、聞き手のことは聞き手が一番よく知っているのであって、まさに相対している聞き手のことを話し手が勝手に推し量って述べることはしにくいだろうからである。

話し手が主体の文も一見少なくてもよさそうなものであるが、それなりに大きな比重を占めているのは、いわゆる「意志」を表す文があることと、話し手が自らの姿を想像しながら述べる文があることによる。 하겠다は平叙文では話し手が主体の文が圧倒的に多いけれども、これには「意志」を表す文のほかに、動詞알다(知る；わかる)・모르다(知らない；わからない)を用言とする文の比重が大きいことによる。 알다と모르다だけで全平叙文の하겠다のうち30.6%を占める。 할것이다では特に알다・모르다の頻度が飛び抜けているということはない。

第三者が主体の文は 할것이다のような推し量りの形式が本領を發揮するところである。現場にいるのは話し手と聞き手であるなら当然のこと、推し量って述べるのは第三者のことについてが多くなるだろうからである。特に平叙文のみを見た場合、 하겠다は第三者を主体とする文が少ないと対照的である。やはり하겠다は推量とは違う性質のものなのである。

なお、第三者とは呼んでも別段人間に限っているわけではなく、ものやことがらが主体の文はここではすべて第三者と考えている。面白いのは、主体をこのよう三分法で捉えようとするとき、「私の体」や「私の心」「私の意識」のような、話し手や聞き手の身体に関するものは「私」であって「私」ではないという両義的な位置にあることである。<sup>(16)</sup> 本稿ではこの類はすべて第三者として扱っておいた。参考までに一例を挙げる：

2201) “기분이 어떻습니까?” “좋습니다만, 어떨까요, 제 몸은?” “편

히 쉬면 끝 회복될 겁니다. 너무 정신적으로나 육체적으로 과로한 탓이니까요.” <河有祥／슬풀것 없어>

「気分はどうですか。」「いいですが、どうでしょうか、私の体は。」「ゆっくりお休みになればすぐ回復するでしょう。精神的にも肉体的にも疲れ過ぎたせいですから。」

主体が話し手の場合の 할것이다の用例をまず見てみることにする：

2202) “한번 더 말씀드리겠는데요. 전 제 자신을 위해서 공부하니까 네가 할 수 있는 테까지 전력을 다할 겁니다. 신경을 건드리지 말아 주십시오. 아시겠죠?” (단호하게 말하고 들어간다) <田玉柱／ア들의 虚像>

「もう一度だけ申し上げますけどね。私は私自身のために勉強するのだから私がやれるところまで全力を尽くすつもりです。 神経をさかなかさせないでください。おわかりですね？」 (断固と述べて入って行く)

2203) “나는 사람들에게 네 일기를 공개할 거요.” <이강택／族譜>  
「私は人々に私の日記を公開する。」

無論、話し手を含む「우리」などもまた話し手の変種である。  
これまでの諸研究でもたびたび触れられてきたように、 할것이다がいわゆる「意志」を表せるのは平叙文の場合には主体が話し手の文に限られる。そこでこの意志と推量という二つをめぐっていろいろな問題が起こってくるのであるが詳しくはモダリティの検討のところで論ずることとし、ここは先を急ぐことにする。

主体が聞き手の例を見る：

2204) 내가 you에게 편지를 쓴 것은 외롭기 때문이야. 아 정말 외롭다.  
you는 내 심정 모를거야. <崔仁浩／バ보들의 行進>  
私が you に手紙を書いたのは寂しいからなの。ああ、ほんとに寂しい。」

youには私の気持ちちはわからないわ。

主体が聞き手の場合、疑問文にのみ、聞き手の意志を尋ねるいわゆる「意志」の 할것이다がありうる：

2205) “여보, 모처럼의 연휴인데 집에만 계실 거예요?” <宋榮／시작과 마지막의 만남>

「あなた、せっかくの連休なのに家にばかりいらっしゃるおつもり？」

主体が第三者のものはこれまでにも何度も引いたので1例のみ示す：

2206) “이 복에 계신 엄마가, 만일 오빠가 그렇게 된다면……살아가실 수 없을 거야!” <金京钰／피보다 질은 정>

「北にいる母さんが、もし兄さんがそんなになつたら……生きていけないわ！」

主体が話し手なのか聞き手なのかそれとも第三者なのかということがはけた場合には一定程度に 하겠다の意味の実現のしかたを規定する要素であったのに対し、 할것이다の場合にはあまり大きな要素とはならず、むしろどれも同じように推量という意味を実現しているように思われる。このことについてもさらにモダリティの検討のところで詳しく論ずることにする。そこではまた主体別に観察することがモダリティの研究に有効であることも示されるであろう。

### 2—3. 用言の種類と 할것이다

할것이다の形式で用いられる用言に、何かしらの特徴があるか調べてみたけれどもさしたる特徴は見いだせなかった。하겠다の場合、 알다(知る・わかる) や모르다(知らない・わからない) という動詞の場合には聞き手・第三者が主体の平叙文は存在しないというような分布上の特徴があつたけれども、 할것이다ならどれも例が見いだせるという具合で、品詞や語

渠の種類にかかわらず 할것이다はまんべんなく分布しているのである。알다と 모르다だけで平叙文の30.6%を占めるというような하겠다で見られた語彙分布・頻度の片寄りもなく、また品詞別・語彙別に意味が大きく変わってくるということも見られず、すべての 할것이다が一律に規定できそうのが特徴である。하겠다の場合は品詞や語彙の種類でさらに하겠다の実現する意味を下位区分できたのであるが、할것이다は基本的に推量としての意味は常に保たれていることがかえって特徴的であると言つてよい。

<sup>(17)</sup> ただ、意志動詞の場合に限つてのみいわゆる意志を表すことができるの  
は하겠다と同様であった：

2301) “협상에 성공하려면 범인과의 약속을 지켜야 해. 만에 하나라도 약속을 지키지 않으면 실패할 수 밖에 없어. 그렇게 되면 아이의 생명이 위험해. 난 단독으로 범인을 만날 거야.” <金聖鍾／悲恋의 火印>  
「交渉に成功しようと思ったら犯人との約束を守らなきゃだめだ。万に一つも約束を守らなかつたら失敗するしかない。そうなつたら子供の命が危ない。私は一人で犯人に会うつもりだ。」

ここでは 만나다という意志動詞が用いられている。しかしこれらの一群とても単純に意志を表しているとは言いがたいのであるが、このことはまたのちに触れる。

なお、意志動詞でも 할수있다（することができる）・ 할수없다（することができない）・ 해야되다（しなければならない）などの形式と組み合わせられると当然のことながら意志は表せないので取り扱いには注意を要する：

2302) 그 말은 뜻다. 조건이 그의 경우라면 어깨를 꿰고 당당한 자세로 맞선 현장에 나갈 수 있을 것이다. <宋榮／시작과 마지막의 만남>  
それはそのとおりだ。条件が彼ほどであれば胸を張って堂々たる姿勢で見合いの場に出かけることができるであろう。

2303) “상처받은 아들, 힘어버린 아들을 위해 우리는 더 노력하고 인내하면서 치유하고 기다려야 할 것입니다.” <田玉柱／아들의 虚像>  
「傷ついた息子、失った息子のために我々はより努力し、忍耐しながら治癒し、待たねばなりますまい。」

생각하다・여기다等の動詞で話し手の心的なありかたを表す場合、하겠다なら今・ここの発話の現場における話し手の心的なありかたを述べることができるのに、할것이다では今・ここにおける話し手の心的なありかたは表しにくいようである：

2304) “엔더슨 씨, 만일 당신이 당신의 본사에 한 번 더 이쪽의 사정을 얘기하고 조건을 완화해 달라고 요청한다면, 저는 그것을, 결과를 떠나, 저에 대한 개인적인 배려로 여기겠습니다.” <복거일／碑銘을 찾아서>  
「アンダーソンさん、万一、あなたがそちらの本社にもう一度こちらの事情を話して条件をゆるめてくれと要請するなら、私はそれを、結果を離れて、私に対する個人的な配慮だと受け取ります。」

上の하겠다の例を 할것이다にすると、今・ここの話し手のことではなくなってしまい、第三者のことや今・ここにいない話し手のことを悠長に推量しているように聞こえ言ひ替えていくという。한다でも不可である。할것이다はどうも発話の現場とは離れたことの推量に用いられる傾向が強そうである。今・ここではなく後の、あるいは別の場所の、そういった非現場的な事態の推量である。こうして考えてくると成者徹(79)の、 것의 現場性、「-을 것이-」の非現場性という指摘は非常に貴重なものであると言つてよい。モダリティに関わるこうした点についてはさらにまたのちに言及することにする。

#### 2—4. 過去接尾辞と 할것이다

할것이다には、過去接尾辞-ㅆ-が前接した했을것이다という形式で用いられる例がある。先の『第3의 情死』の場合、14.8%ほどであった。

そのうち主体は話し手が41.2%，第三者が58.8%で、聞き手のものは偶然かもしれないが見当たらなかった。

この形式には単純に過去のことを推量して述べるものと、現在の事実に反することを述べる、いわゆる反実仮想がある。

過去の推量の例から見る：

2401) 그녀의 언니가 갑자기 살해되는 바람에 그렇게 되었던 것이다.  
선애 역시 언니의 죽음으로 충격이 컸을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>

彼女の姉が突然殺害されたのでそうなったのである。ソネもやはり姉の死で衝撃が大きかったであろう。

2402) 그러니 어린 그녀는 권하는 대로 술을 마실 수밖에 없었을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>

であるから若い彼女は勧められるままに酒を飲むしかなかったであろう。

2403) 그와 나는 가로수 옆에 붙어서서 흥정을 했는데, 내용과는 달리 남들이 보기에는 다정하게 비쳤을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>  
彼と私は街路樹のわきでくつついで立ち、取引をしたのだが、中身とは違って人目には仲がよさそうに写ったであろう。

次に反実仮想の例である：

2404) 아내가 나의 표정을 살피며 물었다. 어두운 방 안이었기 망정이지 그렇지 않았다면 아내는 나의 공포 어린 표정을 보고 늘랐을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>

妻が私の表情を伺いながら尋ねた。暗い部屋の中だったからよかつたもののそうでなかつたら妻は私の恐怖に満ちた表情を見て驚いたであろう。

2405) “다른 여자같으면 그때쯤 벌써 항복했을거야.” <金淑賢／언 빛

그 소리>

「他の女だったらあの頃もう降参してゐるさ。」

2406) 만약 그 두 사건이 한달의 간격만 두고 일어났고 그래서 괴민수와 어느 한쪽 아가씨의 관계가 어느 정도 기정사실이 되었더라면 괴민수의 성격상 결코 이처럼 해피하고 비정상적인 이중관계는 열이지 않았을 것이다. <宋榮／ 시작과 마지막의 만남>

もし、あの二つの事件が一月だけでも間をおいて起こり、そしてクック・ミンスとどちらか一方の女性の関係がある程度既成事実となっていたとしたらクック・ミンスの性格上、決してこのように奇怪で非常識的な二重関係はくりひろげなかつただろう。

할것이다に過去接尾辞が前接する했을것이다という形式は以上見た通りであるが、過去接尾辞が 할것이다に後接した 할것이었다という形式も散見される。これは普通、母語話者への意識調査では不可とされる承接であるけれども、いくつかの資料からしばしば見いだされるのは注目すべきである：

2407) 비록은 사람들의 기억에서조차 사라지고 눈아래론 그저 끝없는 세월 속에 바다만 변함없이 눈부실 것이다. 바다만 변함없이 물비늘을 반짝이며 한가로운 뜶배들의 꿈을 엮어갈 것이다. <李清俊／해변 아리랑>

碑は人々の記憶からさえ消え失せ、目の下にはただ果てしなき歳月のうちに海ばかりが変わることなくまばゆいであつた。海ばかりが変わることなく漣をきらつかせ、のどかな帆かけ舟の夢を紡ぎだしてゆくことであった。

2408) 그것은 이 영국의 원손 무명지에 과연 그 사파이어 반지가 끼여 있는가 확인하는 것 만으로도 충분할 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>

それはイ・ミヨングクの左手の薬指に果たしてそのサファイアの指輪がはめられているか確認することだけでも十分なはずであった。

2409) 차를 내린 부녀 (누가 봐도 그렇게 보일 것이 있다) 의 엄짓거리 는 모양새로 봐서 이 길이 초행인 듯 싶었다. <이상락／난지도의 딸> 車を降りた父娘（誰が見てもそう見えたであろう）のたじろぐ様子から見てこの道は始めてのようであった。

2410) 전 옛날에는 갈보였지요 라고 대답했더라면 나는 그녀의 대답에 조금의 감동 따위는 느끼지 않았을 것이다. <金周榮／外村場 紀行> 昔は壳春婦でしたよと答えていたら私は彼女の答えにいささかの感動などは見えなかつたはずであった。

2411) 그는 조선어로 써어진 책을 읽는 것이 범을 어기는 일인지 알지 못했다. 하기야 조선이라는 글이 있다는 사실조차 몰랐었다. 그래도 그는『조선 고시가선』을 연 순간 거의 본능적으로 그 책을 읽는 것을 남이 알게 되면 결코 이로울 것이 없다는 것을 느꼈다. 아마도 그래서 힌트 가게를 나오면서 남의 눈을 피해 유곽을 찾았을 때 가졌던 느낌을 다시 맛보았을 것이다. <복거일／碑銘을 찾아서>

彼は朝鮮語で書かれた本を読むのが法に触れることだとわからなかった。もっとも、朝鮮語という文字があるという事実さえ知らないでいた。それでも彼は『朝鮮古詩歌選』を開いた瞬間、ほとんど本能的に、その本を読むのを人が知ったら決していいことではないということを感じた。おそらくはそれで、古本屋をあとにしながら、人の目を避けて遊郭を尋ねた時に持った感じを再び味わつたのであつたろう。

どれも日本語には逐語的に訳しにくいけれども推量すること自体を過去のものとして扱っているだらることは見てとれよう。過去のことを推量する文法形式はどの言語でも見られることであろうが、推量すること自体を過去のことに対するという文法形式はそう見られるものではないだろう。

今後この 할것이었다という形式が朝鮮語の上で一般化してゆくのかどうか注目すべきところである。

## 2—5. 副詞と 할것이다

先に II-7 という接続形との共起関係に触れた。ここでは副詞との共起関係を考えてみることにする。

下記の研究でも言及したように、 할것이다には副詞아마 (おそらく ; たぶん) や 아마도 (おそらくは) と共に起するものが多い。『第3の情死』では 4.4% がこれに該当する。一見すると少なそうだが単独の副詞としては多い数字である。下記の方が 아마と共に起しにくいのと対照的である。同じ資料では 아마と共に起する下記は1例もない。 할것이다と共に起する副詞のうち二番目に多い副詞は틀림없이 (間違いなく) で、 3.5% であった。 아마と틀림ないのいずれとも共起率が高いことを見てもわかるように、 할것이다それ自体は話し手の確信度の強さとは係わりがない。話し手の確信の強さや弱さは主に 아마や틀림ないなどの副詞が担っているのである。

아마は本稿でもこれまでにもたびたび例があがっているけれども再度用例を確認しておくことにする：

2501) “시마즈 씨는 처음부터 규우슈우에 자리 잡은 전통적 영주 가문입니다. 아마 황족을 예 놓고는 일본에서 가장 훌륭한 가문일 겁니다.”

<복거일／碑銘을 찾아서>

「島津氏は始めから九州に根をおろした伝統的な領主の家系です。おそらく皇族を除いたら日本で最も立派な家柄でしょう。」

2502) 제 앞에는 지금 은빛, 금빛 종이의 귀엽고 예쁜 학이 출지어 누워 있습니다. 부피로 따진다면 아마 커다란 종이 가방에 하나 가득 널칠 거예요. <임국희·최양숙／바구니에 가득 찬 행복 1>

私の前には今、銀色・金色の紙の、かわいくてきれいな鶴が列を作って寝ています。嵩でいうならおそらく大きな紙の鞄ひとつにいっぱいに溢れる。

でしょ。

2503) 난 다시 돌아온다. 아마 오래 걸리지는 않을 거야. <임칠우／同行>

私は再び帰ってくる。おそらく長くかかりはしないだろう。

2504) “사우더 아라비아라고 왕복에 몇 달씩 걸리는 나라예요. 아마 당분간은 소식 전하기가 어려울 겁니다.” <李文烈／ 사람의 아들>

「サウジアラビアといって往復に何か月もかかる国です。おそらく当分の間は連絡をとるのが難しいと思います。」

2505) 아내와 아이들이 집에서 데낮에 아빠를 보기로는 아마 몇 개월만에 처음이었을 것이다. <趙善作／高壓線>

妻と子供たちが家で昼間から父を見るのはおそらく何か月ぶりかに初めてのことであったろう。

以上のように用言の品詞や過去接尾辞の有無、主体の如何にかかわりなく、아마はまんべんなく共起している。こうしてみるとやはり<아마…… 할것이다>（おそらく……だろう）という形式は朝鮮語における推量の文の典型的な類型として認めてよいであろう。

### 3. 할것이다はどのようなムードか (1)

#### ——意志と疑問

##### 3-0. 할것이다をモダリティから見る

第2章で 할것이다がどのように現れるのかということを見た。共起関係などに 할것이다は一定程度の特徴を示していることがわかった。本章ではさらに突っ込んで、할것이다はいったい話し手のどのような態度を表しているのか、つまりモダリティの面ではどのような働きを持っているのかという問題について考えることにする。할것이다はムード形式であるとする仮説が正しいとするなら、本章及び続く第4章は 할것이다の核心に触れる

議論となるべきものである。

#### 3-1. 意志と 할것이다

할것이다にはいわゆる「意志」を表すとされる一群があることは既に述べた。それらの特徴としては：

①主体は話し手を含む

②用言は意志動詞である

ということが研究者たちによってあげられてきた。それに加えて本稿では：

③用言は 할수 있다・할수 없다・해야되다などの形式ではない

ということを2-3において付け加えておいた。

徐正洙(78)を始めとしてこれまでの研究者たちは、このいわゆる「意志の 할것이다」と、他のいわゆる「推量の 할것이다」とを二分して考え、上の①と②のような条件のもとでは 할것이다は意志あるいは意図を表すのだとしていた。本稿はこうした二者択一的な考え方かたに疑問を抱くものである。下記においてもそうであったように、研究者たちは「意志」と「推量」という二つの概念を同一の平面上で扱ってきたのである。しかしながら1-2でも触れたように、これまで「意志」と呼ばれてきたものは正確には「意志の表明」とでも言うべきものであって、話し手の聞き手に対する面、即ち対聞き手モダリティの平面に属することがらである。一方「推量」は、事態についての話し手の判断のありかたを言うのであるから、対事態モダリティの平面に属することがらである。論者の先の論文(88)で明らかにしたように、こうした二つの平面に属する概念を同一の平面上における対立した概念として操作し、「意志でなければ推量」という機械的な二者択一をするのは、文法の記述に混乱を招くのみならず、何よりも言語事実から遠ざかることになる。

実際に 할것이다の用例で以上のことを確認してゆくことにする：

3101) 집을 떠나 어디로 갈 거냐는 누이의 마지막 간절한 물음에도 그는 어디라 정해진 곳이 없이, ——큰 항구가 있는 곳으로 갈 거야: 돈

을 벌려면 큰 배를 타야 하니까. <李清俊／해변아리랑>

家を離れどこへ行くのかという妹の最後のせつなる問い合わせにも彼はどこといって決まったところもなく、——大きな港があるところへ行くんだ。金を稼ごうと思ったら大きな船に乗らなきゃならないから。

主体も話し手であり、用言も意志動詞、 할수있다などの形式もとっていないのでいわゆる「意志」の条件は満たしている。意志を表明するものであることは異論のないところであろう。ちなみに하겠다や 할래でも言い替えることができる。しかしながらこれは話し手がみずからの姿を思い浮かべながら自らを客体化して述べているものだとも言えないであろうか。即ちみずからの姿を推し量って述べる——推量でもあるとは言えないであろうか。母語話者たちの報告によても推量的な性格があることは否めないという。次のような例になると推量的な色彩がもっと濃くなってくる：

3102) “장 선생, 우리는 자백을 강요할 생각은 추호도 없읍니다. 강요된 자백은 하나도 도움이 안 되니까요. 장 선생이 끝까지 부인하더라도 우리는 결정적인 증거를 가지고 있으니까 당신을 검찰로 송치할 겁니다. 굳이 밤을 지새면서까지 입씨름할 생각은 없읍니다.” <金聖鍾／第3의 情死>

「チャンさん、我々は自白を強要するつもりは毛頭ありません。強要された自白は一つも役に立ちませんからね。チャンさんが最後まで否認なさっても我々は決定的な証拠を持っているからあなたを検察に送りますよ。あえて夜を明かしてまで言い争うつもりはありません。

3103) “난 저 문을 나서는 순간 당신을 잊을거야.” <金淑賢／먼 빛, 그 소리>

「僕はあのドアから出た瞬間、あなたを忘れるだろうよ。」

3104) 이렇게 제가 용기를 갖게 된 것은 <여성살롱>을 통하여 한국의 여성분들에 관한 생활 상태를 잘 듣고 이해하면서부터입니다. 앞으로

어떤 어려운 일이 있더라도 이거 나잘 것입니다. <임국희·최양숙／바구니에 가득찬 행복 1>

このように私が勇気を持てるようになったのは<女性サロン>を通して韓国の女性の方々に関する生活状態をよく聞いて理解してからです。これらどんな困難なことがあってもうちかってゆきます。

3105) ——그러니 어머니, 이제 저는 돈을 벌어 돌아갈 수가 없습니다. 그런 아들은 기다리지 마십시오. 아들이 진정 기다려지시거든 어머니의 노래를 부르십시오. 그러시면서 그 노래 속에서 저를 대신 만나 주십시오. 저는 언제나 어머니의 발가에서, 그 뒷산의 구름덩이와 바람결로, 앞바다의 반짝이는 물비늘과 둑배들로, 어머니의 노래에 함께 귀를 기울이고 있을 것입니다……. <李清俊／해변아리랑>

——ですから母さん、もう私は金を稼いで帰ることができなくなりました。そんな息子は待っていないでください。息子がどうしても待たれるときは母さんの歌を歌ってください。そうしてその歌の中で私に代わりに会ってください。私はいつも母さんの畠の傍らで、あの裏山の雲の塊と風として、前の海のきらめく漣と帆かけ舟として、母さんの歌と共に耳を傾けているでしょう。

こうして次のような例にまで来ると、いわゆる「意志」の한것이다はいつのまにか「推量」と呼ばれる한것이다になっていることに気づくであろう：

3106) 그들의 심문을 과연 내가 견디어 낼 수 있을까. 그 결과는 생각만 해도 소름이 끼친다. 결국 나는 모든 사실을 털어놓을 것이다. 그녀 와의 불륜의 관계를 말이다. <金聖鍾／第3의 情死>

彼らの訊問に果たして私が耐えられるだろうか。その結果は考えただけでも鳥肌が立つ。結局私はすべての事実をしゃべってしまうだろう。彼女との不倫の関係をだ。

3107) 그러나 지금부터는 그렇게 안 될 것이다. 우선 네 자신이 나의  
글종을 용납치 않을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>  
しかしこれからはそうならないだろう。何よりも私自身が私の屈従を許さ  
ないだろう。

このように具体的な例を実際に観察してくるならば、「意志でなければ推量」という二者択一的な把握のしかたには問題があることが見えてくるであろう。現に、母語話者たちもそろって二者択一には躊躇するのである。このような例を見るならば、「意志」的な色彩と「推量」的な色彩のいずれをも帯びた 할것이다が存在しているというよりは、むしろ「意志」的な 할것이다は多かれ少なかれ「推量」的な色彩を帯びていると言ったほうがよいことに気づく。「意志」の 할것이다と「推量」の 할것이다は決して相補分布をなしているわけではないのである。それらはとりもなおさず別の平面における二つの性格なのであって、二つの性格が同時に現れ得るという事実こそが大切なことだったと見なければなるまい。母語話者の意識もまたこうした観察と合致するのである。

文法研究は、ともすれば分類における境界的な例、両義的な例を等閑視しがちであった。逆に上にあげたような境界的・両義的な例をすくいあげることによって、これまで見えなかった事実が見えてくるのである。境界的・両義的な言語事実を前にしたときそうした言語事実に目をつぶったり例外の名でかたづけてしまったりしてはなるまい。さらにまた、伝統的な文法研究では、しばしば「意志」という名づけで満足していた。意志がどうだというところまで厳密に考えることをしないことが多かったのである。本稿では「意志」とは「意志を聞き手に表明すること」なのだと、当然のこととして取り上げた。そして二つのモダリティの平面を混同してはならないことを再確認したのである。

こうして、意志を表明するのは、対聞き手モダリティにおける 할것이다の機能であって、推量的に述べるという対事態モダリティとは何らの矛盾なく共存する機能なのだと明言し得るのである。事態を推し量って述べるという対事態モダリティにおいては、意志を表明するものであれ何であれ

할것이다はすべて推量という働きを持つ。ただ話し手自らに関する事態である場合に限って、対聞き手モダリティにおいて意志表明の役割をすることがあるのである。結局のところ、 할것이다による意志の表明とは、発話の現場にない自らの姿を描き出しながら、想像の上で展開し客体化して述べることで意志表明の役割が果たされる、そういう性質のものだと考えてよいだろう。野間秀樹(88)でも論じたように、 할것이다の意志は、想像された、結果像としての意志なのである。

### 3—2. 疑問と 할것이다

前節において平叙文における 할것이다の意志について述べた。ここでは疑問文について考えることにする。

할것이다の疑問文は 하겠다の疑問文に比べるとはるかに少ない。先にも引いた『第3의 情死』で見ると次のとおりである：

	할것이다	하겠다
終止形の用例	115例 (100.0%)	149例 (100.0%)
疑問文	5例 ( 4.4%)	41例 ( 27.5%)

論者の先の調査(88)でも 하겠다の疑問文は全終止形の 28.6% (金聖鍾『悲恋의 火印』), テクストによっては 40.3% (李文烈『사람의 아들』) というような数字が出ていた。할것이다では上のよう『第3의 情死』で 115例のうちわずか 5例, 4.4% に過ぎない。また 하겠다では反語となる例が疑問文中大きな比重を占めていた(『第3의 情死』で 51.2%, 『悲恋의 火印』で 31.5%, 『사람의 아들』で 45.2%) のに対し 할것이다ではなくどないというのも特徴的である。

主体が話し手の例から見る：

3201) 창가에 앉아 커피를 한 잔 시켰다. 회사에 출근하지도 않은 채 낮 전·곳에 명청히 앉아 있는 내 모습이 더 없이 한심스러워 보였다. 언제

까지 이리고 있을 것인가. 피한다는 것은 어리석은 것이다. 사태를 더 우 악화시킬 뿐이다. 일단 깨지더라도 상대방을 만나야 한다. <金聖鍾／第3의 情死>

窓際に座って珈琲を一杯頬んだ。会社に出勤もせずに見知らぬところでぼんやり座っている私の姿がまたとなく情けなく思えた。いつまでこうやつているつもりなのか。避けるというのは愚かなことだ。ことをいっそう悪化させるだけだ。いったん、話がこわれたとしても相手に会わねばならない。

主体は話し手であるとはいえ、自分を極めて客体化して捉えていることが伺えよう。こうした自問自答に 할것이다の疑問形は好んで用いられる：

3202) 병태는 곰곰 생각해 보았다. 이 지리한 거울을 무엇을 하면서 지 낼 것인가. <崔仁浩／巴보들의 行進>

炳泰はつくづく考えた。この退屈な冬を何をして過ごすんだろう。

しかしどこまでも自分の姿を突き放して客体化している発話だと言えそうである。ただ用例数が少ないので 할까という形式が別に存在していることと関連しているかも知れない。こうした自問自答の하겠다は極めて少ない。

主体が聞き手であれば聞き手に意志を尋ねるものになることが多い：

3203) “형님은 우리 집안의 장남입니다! 그런데 아무것도 안 할 거예요?” <이강택／族譜>

兄さんは僕ら一家の長男です。なのに何もしないんですか？

3204) “여보, 어떻게 할 거예요, 우린?” <洪承疇／運命의 날의 時計>  
「あなた、どうするつもりですの、私たちを。」

聞き手の意志を尋ねる用法は하겠다にもあるけれども「これから先はど

うするか」というような、先のことを展開しながら尋ねる、上のような2例では하겠다では言い替えにくい。ここにも 할것이다の非現場的な推量の性格がよく現れている。発話の現場から離れていない次のようなもっと将然的な事態であれば하겠다で言い替えやすくなるわけである：

3205) “그런 거 없어. 여러 말 하지 말고……빌려줄 거야, 안 빌려줄 거야? 나 지금 급하다고.” <金聖鍾／第3의 情死>

「そんなのはないよ。つべこべいわずに……貸してくれるのか, くれないのか? 俺は今急いでいるんだ。」

3206) 그는 우리집으로 전화를 걸기 위해 밖으로 나가려고 했다. 맘소사! 그가 문을 열려는 것을 보고 나는 그에게 달려들었다. “잘못했읍니다! 요구하는 대로 들어 준 대니 전화만은 제발! 부탁입니다! 선생님, 부탁입니다!” 나는 그의 옷자락을 잡아끌었다. 그는 다시 한 번 나를 걷어찼다. “좋아. 봐준다. 어떡할 거야!?” <金聖鍾／第3의 情死>

彼はうちに電話をかけるために外へ出ようとした。なむさん！ 彼がドアを開けようとするのを見て私は彼にすがりついた。「すみませんでした！ 要求どおりに聞きますから電話だけはどうか！ お願いです！ ね、お願いです！」私は彼の服のすそを引っ張った。彼はもう一度私を蹴飛ばした。「よし、聞いてやろう。どうするってんだ！？」

発話の現場、今・ここから離れた未来のことにはやはり 할것이다が用いられる傾向にあり、発話の現場、今・ここでの将然的な事態には하겠다でも可能になってくるわけである。

第三者が主体のものもある：

3207) 누이가 나중에 돈을 빼인 것을 알면 얼마나 나를 욕할 것인가. <金聖鍾／第3의 情死>

妹があとで金をとられたのを知ったらどんなに私を悪く言うだろう。

それはイ・ミョングクの左手の薬指に果たしてそのサファイアの指輪がはめられているか確認することだけでも十分なはずであった。

2409) 차를 내린 부녀 (누가 봐도 그렇게 보일 것이었다) 의 멈칫거리 는 모양새로 봐서 이 길이 초행인 듯 싶었다. <이상락/난지도의 딸> 車を降りた父娘（誰が見てもそう見えたであろう）のたじろぐ様子から見てこの道は始めてのようであった。

2410) 전 옛날에는 갈보였지요 라고 대답했더라면 나는 그녀의 대답에 조금의 감동 따위는 느끼지 않았을 것이었다. <金周榮/外村場 紀行> 昔は壳春婦でしたよと答えていたら私は彼女の答えにいささかの感動などは覚えなかつたはずであった。

2411) 그는 조선어로 써어진 책을 읽는 것이 법을 어기는 일인지 알지 못했다. 하기야 조선이라는 글이 있다는 사실조차 몰랐었다. 그래도 그는『조선 고시가선』을 연 순간 거의 본능적으로 그 책을 읽는 것을 남이 알게 되면 결코 이로울 것이 없다는 것을 느꼈다. 아마도 그래서 현책 가게를 나오면서 남의 눈을 피해 유곽을 찾았을 때 가졌던 느낌을 다시 맛보았을 것이다. <복거일/碑銘을 찾아서>

彼は朝鮮語で書かれた本を読むのが法に触れることだとはわからなかつた。もっとも、朝鮮語という文字があるという事実さえ知らないでいた。それでも彼は『朝鮮古詩歌選』を開いた瞬間、ほとんど本能的に、その本を読むのを人が知つたら決していいことはないということを感じた。おそらくはそれで、古本屋をあとにしながら、人の目を避けて遊郭を尋ねた時に持つた感じを再び味わつたのであつたろう。

どれも日本語には逐語的に訳しにくいけれども推量すること自体を過去のものとして扱っているだらうことは見てとれよう。過去のことと推量する文法形式はどの言語でも見られることであらうが、推量すること自体を過去のことにするという文法形式はそう見られるものではないだらう。

今後この 할것이 있다という形式が朝鮮語の上で一般化してゆくのかどうか注目すべきところである。

## 2—5. 副詞と 할것이다

先に ॥-면 という接続形との共起関係に触れた。ここでは副詞との共起関係を考えてみることにする。

下記の研究でも言及したように、 할것이다には副詞아마 (おそらく; <sup>(18)</sup> たぶん) および 아마도 (おそらくは) と共起するものが多い。『第3의 情死』では 4.4% がこれに該当する。一見すると少なそうだが単独の副詞としては多い数字である。下記の方が 아마と共にしにくいのと対照的である。同じ資料では 아마と共に起する下記は1例もない。 할것이다と共に起する副詞のうち二番目に多い副詞は 둘림없이 (間違いなく) で、 3.5% であった。 아마と 둘림없이のいずれとも共起率が高いことを見てもわかるように、 할것이다それ自体は話し手の確信度の強さとは係わりがない。話し手の確信の強さや弱さは主に 아마や 둘림없이などの副詞が担っているのである。

아마は本稿でもこれまでにもたびたび例があがつていても再度用例を確認しておくことにする：

2501) “시마즈 씨는 처음부터 규우슈우에 자리 잡은 전통적 영주 가문입니다. 아마 황족을 빼 놓고는 일본에서 가장 훌륭한 가문일 겁니다.”  
<복거일/碑銘을 찾아서>

「島津氏は始めから九州に根をおろした伝統的な領主の家系です。おそらく皇族を除いたら日本で最も立派な家柄でしょう。」

2502) 제 앞에는 지금 은빛, 금빛 종이의 커업고 예쁜 학이 줄지어 누워 있습니다. 부피로 따진다면 아마 커다란 종이 가방에 하나 가득 넘칠 거예요. <임국회·최양록/바구니에 가득 찬 행복!>

私の前には今、銀色・金色の紙の、かわいくてきれいな鶴が列を作つて寝ています。尚でいうならおそらく大きな紙の鞄ひとつにいっぷいに溢れる

でしょ。

- 2503) 난 다시 돌아온다. 아마 오래 걸리지는 않을 거야. <임철우／同行>  
私は再び帰ってくる。おそらく長くかかりはしないだろう。

- 2504) “사우디 아라비아라고 왕복에 몇 달씩 걸리는 나라예요. 아마 당분간은 소식·전하기가 어려울 겁니다.” <李文烈／ 사람의 아들>  
「サウジアラビアといって往復に何か月もかかる国です。おそらく当分の間は連絡をとるのが難しいと思います。」

- 2505) 아내와 아이들이 집에서 대낮에 아빠를 보기로는 아마 몇 개월만에 처음이었을 것이다. <趙善作／高壓線>  
妻と子供たちが家で昼間から父を見るのはおそらく何か月ぶりかに初めてのことであったろう。

以上のように用言の品詞や過去接尾辞の有無、主体の如何にかかわりなく、아마はまんべんなく共起している。こうしてみるとやはり<아마……할것이다> (おそらく……だろう)という形式は朝鮮語における推量の文の典型的な類型として認めてよいであろう。

### 3. 할것이다はどのようなムードか (1)

#### —意志と疑問

##### 3—0. 할것이다をモダリティから見る

第2章で 할것이다がどのように現れるのかということを見た。共起関係などに 할것이다は一定程度の特徴を示していることがわかった。本章ではさらに突っ込んで、 할것이다はいったい話し手のどのような態度を表しているのか、つまりモダリティの面ではどのような働きを持っているのかという問題について考えることにする。 할것이다はムード形式であるとする仮説が正しいとするなら、本章及び続く第4章は 할것이다の核心に触れる

議論となるべきものである。

#### 3—1. 意志と 할것이다

할것이다にはいわゆる「意志」を表すとされる一群があることは既に述べた。それらの特徴としては：

①主体は話し手を含む

②用言は意志動詞である

ということが研究者たちによってあげられてきた。それに加えて本稿では：

③用言は 할수있다・할수없다・해야되다などの形式ではない  
ということを2—3において付け加えておいた。

徐正株(78)を始めとしてこれまでの研究者たちは、このいわゆる「意志の 할것이다」と、他のいわゆる「推量の 할것이다」とを二分して考え、上の①と②のような条件のもとでは 할것이다は意志あるいは意図を表すのだとしていた。本稿はこうした二者択一的な考え方たに疑問を抱くものである。ただしにおいてもそうであったように、研究者たちは「意志」と「推量」という二つの概念を同一の平面上で扱ってきたのであった。しかしながら1—2でも触れたように、これまで「意志」と呼ばれてきたものは正確には「意志の表明」とでも言うべきものであって、話し手の聞き手に対する面、即ち対聞き手モダリティの平面に属するところが然である。一方「推量」は、事態についての話し手の判断のありかたを言うのであるから、対事態モダリティの平面に属するところが然である。論者の先の論文(88)で明らかにしたように、こうした二つの平面に属する概念を同一の平面上における対立した概念として操作し、「意志でなければ推量」という機械的な二者択一をするのは、文法の記述に混乱を招くのみならず、何よりも言語事実から遠ざかることになる。

実際に 할것이다の用例で以上のことを見つける：

- 3101) 집을 떠나 어디로 갈 거냐는 누이의 마지막 잔걸한 끝음에도 그는 어디라 정해진 곳이 없이, ——큰 항구가 있는 곳으로 갈 거야. 돈

을 벌려면 큰 배를 타야 하니까. <李清俊／해변아리랑>  
 家を離れどこへ行くのかという妹の最後のせつなる問い合わせにも彼はどことい  
 って決まったところもなく、——大きな港があるところへ行くんだ。金を  
 稼ごうと思ったら大きな船に乗らなきゃならないから。

主体も話し手であり、用言も意志動詞、 할수있다などの形式もとっていないのでいわゆる「意志」の条件は満たしている。意志を表明するものであることは異論のないところであろう。ちなみに하겠다や 할래でも言い替えることができる。しかしながらこれは話し手がみずからの姿を思い浮かべながら自らを客体化して述べているものだとも言えないであろうか。即ちみずからの姿を推し量って述べる——推量でもあるとは言えないであろうか。母語話者たちの報告によても推量的な性格があることは否めないという。次のような例になると推量的な色彩がもっと濃くなってくる：

3102) “장 선생, 우리는 자백을 강요할 생각은 추호도 없읍니다. 강요된 자백은 하나도 도움이 안 되니까요. 장 선생이 끝까지 부인하더라도 우리는 결정적인 증거를 가지고 있으니까 당신을 검찰로 송치할 겁니다. 굳이 밤을 지새면서까지 입씨름할 생각은 없읍니다.” <金聖鍾／第3의 情死>

「チャンさん、我々は自白を強要するつもりは毛頭ありません。強要された自白は一つも役に立ちませんからね。チャンさんが最後まで否認なさっても我々は決定的な証拠を持っているからあなたを検察に送りますよ。あえて夜を明かしてまで言い争うつもりはありません。

3103) “난 치 문을 나서는 순간 당신을 잊을거야.” <金淑賢／먼 빛, 그 소리>

「僕はあのドアから出た瞬間、あなたを忘れるだろうよ。」

3104) 이렇게 제가 용기를 갖게 된 것은 <여성살롱>을 통하여 한국의 여성분들에 관한 생활 상태를 잘 듣고 이해하면서부터입니다. 앞으로

어떤 어려운 일이 있더라도 이거 나잘 것입니다. <임국희·최양묵／마구니에 가득찬 행복 1>

このように私が勇気を持てるようになったのは<女性サロン>を通して韓国の女性の方々に関する生活状態をよく聞いて理解してからです。これからどんな困難なことがあってもうちかってゆきます。

3105) ——그러니 어머니, 이제 저는 돈을 벌어 돌아갈 수가 없읍니다. 그런 아들은 기다리지 마십시오. 아들이 진정 기다려지시거든 어머니의 노래를 부르십시오. 그러시면서 그 노래 속에서 저를 대신 만나 주십시오. 저는 언제나 어머니의 밥가에서, 그 뒷산의 구름덩이와 바람결로, 앞바다의 반짝이는 물비늘과 둑배들로, 어머니의 노래에 함께 귀를 기울이고 있을 것입니다……. <李清俊／해변아리랑>

——ですから母さん、もう私は金を稼いで帰ることができなくなりました。そんな息子は待っていないでください。息子がどうしても待たれるときは母さんの歌を歌ってください。そしてその歌の中で私に代わりに会ってください。私はいつも母さんの畑の傍らで、あの裏山の雲の塊と風として、前の海のきらめく波と帆かけ舟として、母さんの歌と共に耳を傾けているでしょう。

こうして次のような例にまで来ると、いわゆる「意志」の 할것이다はいつのまにか「推量」と呼ばれる 할것이다になっていることに気づくであろう：

3106) 그들의 심문을 과연 내가 견디어 낼 수 있을까. 그 결과는 생각만 해도 소름이 끼친다. 결국 나는 모든 사실을 털어놓을 것이다. 그녀와의 불륜의 관계를 말이다. <金聖鍾／第3의 情死>

彼らの訊問に果たして私が耐えられるだろうか。その結果は考えただけでも鳥肌が立つ。結局私はすべての事実をしゃべってしまうだろう。彼女との不倫の関係をだ。

3107) 그러나 지금부터는 그렇게 안 될 것이다. 우선 네 자신이 나의  
줄종을 용납치 않을 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>  
しかしこれからはそうならないだろう。何よりも私自身が私の屈従を許さ  
ないだろう。

このように具体的な例を実際に観察してくるならば、「意志でなければ  
推量」という二者択一的な把握のしかたには問題があることが見えてくる  
であろう。現に、母語話者たちもそろって二者択一には躊躇するのである。  
このような例を見るならば、「意志」的な色彩と「推量」的な色彩のいづ  
れをも帯びた 할것이다が存在しているというよりは、むしろ「意志」的な  
 할것이다は多かれ少なかれ「推量」的な色彩を帯びていると言ったほうが  
よいことに気づく。「意志」の 할것이다と「推量」の 할것이다は決して相  
補分布をなしているわけではないのである。それらはどりもなおさず別の  
平面における二つの性格なのであって、二つの性格が同時に現れ得るとい  
う事実こそが大切なことだったと見なければなるまい。母語話者の意識も  
またこうした観察と合致するのである。

文法研究は、ともすれば分類における境界的な例、両義的な例を等閑視  
しがちであった。逆に上にあげたような境界的・両義的な例をすくいあげ  
ることによって、これまで見えなかった事実が見えてくるのである。境界  
的・両義的な言語事実を前にしたときそうした言語事実に目をつぶったり  
例外の名でかたづけてしまったりしてはなるまい。<sup>(19)</sup>さらにまた、伝統的な  
文法研究では、しばしば「意志」という名づけで満足していた。意志がど  
うだというところまで厳密に考えることをしないことが多かったのである。  
本稿では「意志」とは「意志を聞き手に表明すること」なのだと、当然の  
ことを当然のこととして取り上げた。そして二つのモダリティの平面を混  
同してはならないことを再確認したのである。

こうして、意志を表明するのは、対聞き手モダリティにおける 할것이다  
の機能であって、推量的に述べるという対事態モダリティとは何らの矛盾  
なく共存する機能なのだと明し得るのである。事態を推し量って述べる  
という対事態モダリティにおいては、意志を表明するものであれ何であれ

할것이다はすべて推量という働きを持つ。ただ話し手自らに関する事態で  
ある場合に限って、対聞き手モダリティにおいて意志表明の役割をするこ  
とがあるのである。結局のところ、 할것이다による意志の表明とは、発話  
の現場にない自らの姿を描き出しながら、想像の上で展開し客体化して述  
べることで意志表明の役割が果たされる、そういう性質のものだと考へて  
よいだろう。野間秀樹(88)でも論じたように、 할것이다の意志は、想像さ  
れた、結果像としての意志なのである。

### 3—2. 疑問と 할것이다

前節において平叙文における 할것이다の意志について述べた。ここでは  
疑問文について考えることにする。

할것이다の疑問文は 하겠다の疑問文に比べるとはるかに少ない。先にも  
引いた『第3의 情死』で見ると次のとおりである：

	할것이다	하겠다
終止形の用例	115例 (100.0%)	149例 (100.0%)
疑問文	5例 ( 4.4%)	41例 ( 27.5%)

論者の先の調査(88)でも 하겠다の疑問文は全終止形の 28.6% (金聖鍾  
『悲恋의 火印』), テクストによっては 40.3% (李文烈『사람의 아들』)  
というような数字が出ていた。 할것이다では上のように『第3의 情死』  
で 115例のうちわずか 5例, 4.4% に過ぎない。また 하겠다では反語となる  
例が疑問文中大きな比重を占めていた (『第3의 情死』で 51.2%, 『悲恋  
의 火印』で 31.5%, 『사람의 아들』で 45.2%) のに対し 할것이다ではほ  
とんどないというのも特徴的である。

主体が話し手の例から見る：

3201) 창가에 앉아 커피를 한 잔 시켰다. 회사에 출근하지도 않은 채 낮  
선 곳에 멍청히 앉아 있는 내 모습이 더 없이 한심스러워 보였다. 언제

까지 이리고 있을 것인가. 피한다는 것은 어리석은 것이다. 사태를 더 악화시킬 뿐이다. 일단 깨지더라도 상대방을 만나야 한다. <金聖鍾／第3의 情死>

窓際に座って珈琲を一杯頬んだ。会社に出勤もせずに見知らぬところでぼんやり座っている私の姿がまたとなく情けなく思えた。いつまでこうやっているつもりなのか。避けるというのは愚かなことだ。ことをいっそう悪化させるだけだ。いったん、話がこわれたとしても相手に会わねばならない。

主体は話し手であるとはいえ、自分を極めて客体化して捉えていることが伺えよう。こうした自問自答に 할것이다の疑問形は好んで用いられる：

3202) 병태는 곰곰 생각해 보았다. 이 지리한 겨울을 무엇을 하면서 지낼 것인가. <崔仁浩／마보들의 行進>

炳泰はつくづく考えた。この退屈な冬を何をして過ごすんだろう。

しかしどこまでも自分の姿を突き放して客体化している発話だと言えそうである。ただ用例数が少ないのは 할까という形式が別に存在していることと関連しているかも知れない。こうした自問自答の하였다は極めて少ない。

主体が聞き手であれば聞き手に意志を尋ねるものになることが多い：

3203) “형님은 우리 집안의 장남입니다! 그런데 아무것도 안 할 거예요?” <이강택／族譜>

兄さんは僕ら一家の長男です。なのに何もしないんですか？

3204) “여보, 어떻게 할 거예요, 우린?” <洪承疇／運命의 날의 時計>  
「あなた、どうするつもりですの、私たちを。」

聞き手の意志を尋ねる用法は하였다にもあるけれども「これから先はど

うするか」というような、先のことを展開しながら尋ねる、上のような2例では하였다では言い替えにくい。ここにも 할것이다の非現場的な推量の性格がよく現れている。発話の現場から離れていない次のようなもっと専然的な事態であれば하였다で言い替えやすくなるわけである：

3205) “그린 거 없어. 여러 말 하지 말고……빌려줄 거야, 안 빌려줄 거야? 나 지금 급하다고.” <金聖鍾／第3의 情死>

「そんなのはないよ。つべこべいわずに……貸してくれるのか, くれないのか? 俺は今急いでいるんだ。」

3206) 그는 우리집으로 전화를 걸기 위해 밖으로 나가려고 했다. 맘소사! 그가 문을 열려는 것을 보고 나는 그에게 달려들었다. “잘못했읍니다! 요구하는 대로 들어 준 테니 전화만은 제발! 부탁입니다! 선생님, 부탁입니다!” 나는 그의 웃자락을 잡아끌었다. 그는 다시 한 번 나를 걷어찼다. “좋아. 봐준다. 어떡할 거야! ?” <金聖鍾／第3의 情死>

彼はうちに電話をかけるために外へ出ようとした。なむさん！ 彼がドアを開けようとするのを見て私は彼にすがりついた。「すみませんでした！ 要求どおりに聞きますから電話だけはどうか！ お願いです！ ね、お願いです！」私は彼の服のすそを引っ張った。彼はもう一度私を蹴飛ばした。「よし、聞いてやろう。どうするってんだ！？」

発話の現場、今・ここから離れた未来のことにはやはり 할것이다が用いられる傾向にあり、発話の現場、今・ここでの専然的な事態には하였다でも可能になってくるわけである。

・第三者が主体のものもある：

3207) 누이가 나중에 돈을 빼인 것을 알면 얼마나 나를 욕할 것인가. <金聖鍾／第3의 情死>

妹があとで金をとられたのを知ったらどんなに私を悪く言うだろう。

こうして見えてくると疑問文においても 할것이다の基本的な性格は貫かれていることがわかる。

疑問文はすべて聞き手に何ごとかを尋ねるという点では平叙文とはモダリティが異なっている。以上、特に疑問文のみを取り出して述べた所以である。

#### 4. 할것이다はどのようなムードか (2)

——할것이다と하겠다

##### 4—0. 할것이다と하겠다

할것이다と将然判断の하겠다とはモダリティにおいて似たところがあるので、これまでもたびたび触れたように、 할것이다の文には하겠다で言い替え得るもののが存在する。ではどのような文が하겠다と言い替えがきき、どのような文が言い替えがきかないのであろうか。朝鮮語の文法研究の上でも、また日本語との対照研究の上でも、この問題は非常に重要な問題だと思われる。ここで今一度整理しながら本稿の主題である 할것이다を解明していくことにする。疑問文については既に3—2で述べたので以下は平叙文のみを対象にする。

ところで言い替えの調査といいうものは「はい／いいえ」のような○×式で割り切れるような性質のものではなく、どこまでも傾向として把握すべきものだとここでは考えている。母語話者でも判断に迷うもの、母語話者ごとに答えが異なるものなどが統出して当然であるし、境界的・両義的なものが存在することの方が言語にとってはより現実的である。本稿ではこういう立場にたって、<言い替えがしやすいもの>および<言い替えがしにくいもの>といいうるやかな把握のしかたをすることにする。なお、ここで<言い替え>といいうのは言い替えて不自然な文にならぬということであって、言い替ても何一つ文の意味やニュアンスが変わらないということをいうのではない。

ここではまた参考のために한다など他の諸形式についてもしばしば言及する。以下、主体別に見てゆくことにする。

##### <할것이다>の研究(野間)

##### (35)

###### 4—1. 話し手が主体の場合の할것이다

まず話し手が主体のものから例を見てゆく。

###### 4—1—1. 하겠다で言い替えやすい한것이다

これまでの文法研究でしばしばなされたように単独の文だけ考える分には言い替えが可能なものが多いけれども、文脈まで考え合わせると하겠다で言い替えやすい例は実はそう多くはない：

4101) “그리고 너희들이 법정에 나가서 본 대로 말하렴.” “어머니, 저 너희들은 그런 법정엔 나가지 않을 겁니다.” “왜? 너희들을 위한 일인 배?” <이강택／族譜>

「そしてお前たちが法廷に出て、見たままをお話し。」「母さん、ぼくらはそんな法廷なんかには出ませんよ。」「どうして? お前たちのためなのに。」

4102) “커트라인이 높을텐데…….” “예상하고 있습니다. 그러나 저는 어떻게 해서라고 그 과에 들어갈 것입니다.” <田玉柱／アドルの虚像>  
「カットラインが高いだろうに……」「予想しています。しかし私はどうやってもその科に入ります。」

4103) “또 오세요.” 그녀가 내 뒤에서 말했다. 나는 그녀를 돌아보지 않은 채 고여였다. ‘이젠 다시는 오지 않을 거야.’ 하고 나는 속으로 중얼거렸다. <金聖鍾／第3의 情死>

「またいらして。」彼女が私の後ろで言った。私は彼女を振り返らぬままうなずいた。「もう二度と来るものか」と私は心の中でつぶやいた。

4104) “난 헤어질 수 없어요. 아기를 낳아 기를 거예요!” “이년이 미쳤나!” <金聖鍾／第3의 情死>

「私は別れられませんわ。子供を産んで育てます！」「こいつ、どうかしちゃったのか！」

4105) “사랑은 주는 것이지 받는 게 아니에요. 선생님이 저를 사랑하지 않는다 해도 저는 선생님을 죽을 때까지 사랑할 거에요. 선생님 많은 이야기를 낳아서 죽을 때까지 선생님 생각하면서 살아갈 거에요。” <金聖鍾／第3의 情死>

「愛は与えるものであって与えられるものではありませんわ。あなたが私を愛していないとしても私はあなたを死ぬまで愛するでしょう。あなたに似た子を産んで死ぬまであなたのことを思いながら生きてゆきますわ。」

4105) などは母語話者の多くが意志でもあり推量でもあるとするもので、「意志の 할것이다는 하겠다고言い替えがきき、推量의 할것이다는 하겠다고言い替えがきかない」という単純な考え方方は誤りであることがわかる。

以上は하겠다では可だが한다では不自然とされるものである。

4106) “오늘은 꼭 들어오셔야 해요. 아빠 오실 때까지 우리 저녁 먹지 않고 기다리고 있을 거예요. 알았죠?” 큰 딸의 말이었다. <金聖鍾／第3의 情死>

「今日はきっとお帰りになってね。お父さんがお帰りになるまで私たち夕食を食べないで待ってるから。いいでしょ？」上の娘のことばだった。

上はイントネーションによっては한다でも可能とされるものである。こうして見えてくると話し手が主体の場合は、話し手の姿を聞き手に想起させながら、言い聞かせるように語る文が多いようである。また하겠다で言い替えやすいものには意志を表明する働きを持つものが多い。

#### 4—1—2. 하겠다で言い替えにくい 할것이다

一方、主体が話し手の場合で、하겠다で言い替えにくいものには次のような例がある：

4107) “선미가 생전에 무슨 짓을 했던 난 상관하지 않습니다! 비록 창녀 짓을 했다 해도 나는 그녀를 사랑할 겁니다。” <金聖鍾／第3의 情

#### 死>

「ソンミが生前どんなことをしていたとしても私には関係ありません！たとえ娼婦のようなことをしたとしても私は彼女を愛するでしょう。」

하겠다と한다のいずれもやや不自然とされるのであるが、「ソンミ」が生きていればいずれも可能なようである。하겠다なら今まさに愛するつもりだということだし、한다なら今すでに愛しているということになる。したがって愛する対象が死んでしまって存在しなければ하겠다や한다を用いるにはやや抵抗があるのである。なお했을것이다も可である。

4108) “홍 선생의 심정은 이해가 갑니다. 나라도 그런 경우를 당하면 여자를 죽였을 겁니다。” <金聖鍾／第3의 情死>

「ホン先生の心情は理解できます。私だってそんな目にあつたら女を殺したでしょう。」

上のような例では했겠다を不自然とするかどうかは母語話者によって異なるてくる。話し手みずからを現場と離れた場に置いた想像ではあるけれども、「そんな目にあつたら」という現場の情報を契機にした하겠다的な判断もある程度可能だからであろう。했다も揺れている。했을것같다なら可能である。

今一つ例を見る：

4109) 만일 그가 나를 가리키 조 선미와 함께 투숙했던 40대 남자가 틀림없다고 끝까지 우겼다면 나는 품삯없이 살인범으로 몰려 버렸을 것이다. 그러나 다행히도 그의 대답은 이것도 저것도 아닌 어정쩡한 것�이어서 바로 그것이 나를 구해 준 것이다. <金聖鍾／第3의 情死>

万一、彼が私をさしてチョ・ソンミと一緒に泊まった40代の男に間違いないと最後まで言い張ったとしたら私は有無を言わさず殺人犯にされてしまつただろう。しかし幸いにも彼の答えはああでもこうでもない中途半端なもので、まさにそれが私を救ってくれたのである。

(20)  
했겠다·했으나는やはり不自然, 했을것같다는自然である。

- 4110) 그러나 우리들의 애정 관계는 돈을 주고받는 것일 수가 없었다.  
그런 관계였다면 서울에 와서까지 만나지는 않았을 것이다. <金聖鍾/  
第3의 情死>

しかし我々の愛情関係は金をやりとりするものであるはずがなかった。そ  
んな関係だったらソウルに来てまで会いはしなかったろう。

想像の上で過去の事情をあれこれ展開しながら述べるものである。こう  
いう場合は했겠다ではやはり不自然さが否めないようである。했을것같  
なら可能である。面白いことに、こうした反実仮想の例では日本語なら  
「会いはしなかった」でも自然であるのに朝鮮語では했으나는母語話者が  
抵抗を示す場合がある。こうした反実仮想の 할것이다のうち했으나는で言い替  
え得るものは日本語に比べると少ないかもしれない。

했다で反実仮想が可能なものもある：

- 4111) “아빠는 자를 죽이려고 했어요. 엄마가 말리지 않았으면 전 죽  
었을 거예요.” <金聖鍾/第3의 情死>  
「お父さんは私を殺そうとしました。お母さんが止めなからたら私は死ん  
でいたと思います。」

上の例では했으나는(ここでは죽었어요)と했을것같다(ここでは죽었을것  
 같아요)のいずれも可能で、 할것이다による反実仮想も場合によっては했  
으나는で言い替えが可能なことがわかる。

この例も自分が体験した過去の一場面にみずからを置いて推量している  
ので하겠다は嫌われるわけである。上と同じ죽다(死ぬ)という動詞で  
하겠다を用いるなら、次のように発話の現場で得た情報を契機にした、もつ  
と切迫した気持ちで判断する発話でなければならない：

- 4112) “아니, 제가 그렇게 위독했었던 말입니까? 그럼 그때 어머니가

수월을 해 주시지 않았더라면 전 죽었겠네요.”

「ええ？ 私がそれほど危なかったんですか。じゃあその時母が輸血をし  
てくれなかつたら私は死んでたでしょうね。」

ここでは新しい発見という要素が加わるのでさらに I-네요 という語尾  
を加えて죽었겠네요とした方が죽었겠어요のままよりすわりが良くなる。

こうして観察してみると、過去接尾辞を持った 할것이다は、今・ここ  
別なところ——それは主として自分が体験した場面であるが——にいる自  
分を客体化し想像しながら述べるものであることがわかってくる。「お父  
さんは私を殺そうとしました」と過去に自分が体験した場面にみずからを  
置く。話し手は今・こここの発話の現場を離れて過去の一場面へと移行する  
わけである。その上で「お母さんが止めなからたら」と自分で一定の条件を  
提示しながら「죽었을 겁니다」(死んでいたことでしょう)と推し量って  
述べるのである。「我々の愛情関係は金をやりとりするものではなかっ  
た」と過去の場面を想起しておいて、「もしそんな関係だったら」と自分  
で条件を提示しながら「만나지는 않았을 것이다」(会いはしなかった  
ろう)と推し量るのである。これが典型的な 할것이다の推量のメカニズムで  
ある。

例えば「나라도 했을 거야」(俺だってやっただろうよ)という 할것이다  
の発話は、そういう場面であれば私だっておそらくやったであろうと、  
過去の場面に自らを置いて客体化して語っているのである。 할것이다にお  
ける話し手の関心は想像され展開された結果にあるのである。

一方、「나라도 했겠다」(俺だってやったさ)という하겠だの発話は、  
それなら——自分は体験はしていないけれども、今お前が言うようなこと  
だったら——俺だってやったさ、俺は今・ここでそう思っているのだ、そ  
れが今・ここでの俺の気持ちだという、どこまでも発話の現場にみずから  
を置いた発話なのである。하겠다は、基本的には発話の現場で得た情報や  
体験を契機にした判断であって、하겠다では自分が体験した場面に自分を  
おいて語ることはできない。過去の自分を想像の上で展開しながら述べる  
例になると하겠だが用いにくかったわけはここにある。하겠だは、たとえ

過去接尾辞を持つ了겠다という形式であっても、常に今・このものなのである。

#### 4-1-3. 話し手が主体の場合の할것이다のムード

話し手が主体の場合の할것이다を総括する。対事態モダリティの点から観察すると、할것이다は今・ここでの発話の現場にいない話し手の姿を想像しながら客体化して述べるというムードの発話に用いられる。みずからに関する非現場的な事態を推し量って述べる推量のムードである。このことは話し手が主体のすべての할것이다に一貫しており、一元的に捉えることを可能にする。過去接尾辞がない할것이다であれば、自分は発話の現場を離れ、ここは別の場での姿、あるいはこれから先の姿となって述べることになり、過去接尾辞があればみずからは発話の現場を離れ過去の一場面にたち返ってあのときはこうしただろうと推し量って述べることになる。

また対聞き手モダリティの点から言えば、過去接尾辞がない場合はみずからの去就を対象化して語るのであるからしばしば意志を表明する機能を持つ。同時に、聞き手に対しても話し手の姿を描き出させることができるので聞き手に言い聞かせるように語る機能も持つ。

話し手が主体の할것이다については以上である。

#### 4-2. 聞き手が主体の場合の할것이다

以上、4-1では話し手が主体の할것이다を見た。次にこの4-2では聞き手が主体の場合を検討する。

##### 4-2-1. 하겠다で言い替えやすい할것이다

할것이다の側からは該当する例が発見できなかった。これは主体が聞き手の場合の할것이다が特に平叙文だと極めて少ないという資料の量的な制約のためだけではない。하겠다のテキストからも할것이다で言い替え得る例がほとんど見いだせないからである。なぜそうなのか参考までに하겠다の資料から1例を引いて検討してみよう：

##### <할것이다>の研究(野間)

4201) (リングの外に転落した崔倍達、懸命の力をふりしぶって미자と共に叫ぶ) “나 혼자 힘으로 올라간다! 저리 미쳐라!” (영하は倍達を止めようとする) “형! 정말……기권을 해요!” (そして미자も叫ぶ) “그러다 죽겠어요! 네?” <고우영/데야망 2>

「私一人の力で登るんだ！ あっちへどけ！」 「兄貴！ ほんとに……乗車しようよ！」 「そのままじゃ死んじゃうわ、ねえ！」

聞き手はどこまでも発話の現場のうちにすることに注意したい。「そのままで死んでしまう」となってはいても、「将来あなたは死んでしまうだろう」というような、これから先の結果を問題にしているのではなく、どこまでも今・ここでの聞き手のことを言っているのである。話し手の関心が今・ここでの発話の現場の内を離れぬまま、「今何とかしないと死んでしまう」と聞き手のことを慮った、極めて切迫した発話なのである。これが하겠다であって、これを 할것이다にすると切迫感は失せ、聞き手のこれからありさまを説明したり言い聞かせたりする発話となってしまい、そうした悠長さがこの場面にいささかそぐわないのである。

また例えば聞き手に向かって言う、「저쪽하시겠습니다」(お寂しいでしょうね)とか、「걱정되시겠습니다」(ご心配でしょうね)といった하겠다の一連の用法がある。しかしこれらを 할것이다にしたとたんに聞き手は今・ここでの現場を離れ、話し手が聞き手の今を思いやっていることにはならなくなってしまう。 할것이다で述べられた主体は今・ここにはいないのである。

聞き手が主体の할것이다で、テキストの文脈を考え合わせてもなお自由に하겠다と言い替えうるものはおそらく極めて稀に違いない。

##### 4-2-2. 하겠다で言い替えにくいくらい이다

聞き手が主体のものはほとんどが하겠다で言い替えにくい：

4202) 만약 당신이 거기 나오지 못하는 경우 당신은 일생일대의 대실책을 범하는 셈이 되며 당신은 두고두고 후회하실 것입니다. <宋榮/시

## 작과 마지막의 만남

もしもあなたがそこへ出て来れない場合、あなたは一世一代の大失策をすることになり、あなたはいついつまでも後悔なさるでしょう。

手紙の一節、한다も不自然である。「もしもあなたがそこへ出て来れない場合」と話し手が条件を提示することによって聞き手はこれから先の「そういう場合」へと移行する。そうなれば「두고두고」(いついつまでも)「후회하신 것입니다」(後悔なさるでしょう)と聞き手の姿を形象化しながらじっくりと言い聞かせるように述べてゆく。こうした推量はやはり하겠다ではだめなのである。

4203) “언젠가는 제 마음을 이해해 주실 거예요.” “그렇지 않아도 이해하고 있어.” <金聖鍾／第3의 情死>

「いつかは私の気持ちをわかってくださいますわ。」「そうでなくともわかってるよ。」

今・ここではだめでも「언젠가는」(いつかは)と聞き手を現場から離れた将来へと送って、「이해해 주실 거예요」(わかってくれることでしょう)と 할것이다で聞き手を客体化しながら言い聞かせるように述べてゆく。こうして「いつか」の聞き手の姿に話し手の関心があるように述べるからこそ、聞き手は、今・ここでも既に「이해하고 있어」(わかってるよ)と、하고 있다 (……している)で反応してきたわけである。やはりこれも하겠다の領分ではないのである。

## 4—2—3. 聞き手が主体の場合の할것이다のムード

主体が話し手の場合は話し手自身が現場から離れた場へと移行したのであるけれども、それとは異なって、主体が聞き手の場合はこんどは聞き手が現場から離れた場へと移されることがわかる。対事態モダリティから見ると、聞き手を今・この発話の現場から離れた場で形象化し、聞き手に関する非現場的事態を話し手が推し量って述べる推量のムードなのである。

## &lt;할것이다&gt;の研究 (野間)

## ( 43 )

対聞き手モダリティの点では、何ごとかを聞き手に言い聞かせたり説明する働きを持つことが多い。

## 4—3. 第三者が主体の場合の할것이다

第三者が主体の場合に移る。

## 4—3—1. 하겠다で言い替えやすい할것이다

これまでと同様、文脈まで考え合わせると하겠다で言い替えやすいものの方が言い替えにくいものよりはるかに少ない：

4301) “만일 서호주 측에서 그 가격의 타당성을 뒷받침하는 자료를 제공해 준다면 우리에게 도움이 될 것입니다.” <복거일／碑銘을 찾아서> 「もし西蒙州(ここでは会社名——引用者)側からその価格の妥当性を裏付ける資料を提供してくれるなら我々に役立つことでしょう。」

할것이다ならば客観主義的に「役立つだろう」と述べることになり、하겠다ならば「私の思うところではまさに役立つと思う」という気持ちである。 할것이다が話し手を押し隠した客観主義的な語り口なのに対し、하겠다の発話は常に話し手を顕在化させる。また할것이다は今・この現場から遠いが、하겠다は現場に切迫した発話となる。次の例も同様である：

4302) 그는 책인을 뛰쳐서 원하는 부분을 찾아냈다. “여긴데……봐. 꿈을 나와 있지. 이걸 복사해 가지고 읽어 봐. 도움이 될 거야.” “예. 고맙습니다.” <복거일／碑銘을 찾아서>

彼は索引をめくって欲しい部分を探しだした。「ここだ……見ろ。ずらっと出てるだろ。これをコピーして読んでみろ。役に立つだろう。」「はい、ありがとうございます。」

할것이다ならば相手の立場に立って「役に立つと思う」と推し量るのであり、하겠다なら自分が今・ここで判断するには「役に立ちそうだ」いう

気持ちなのである。なお、話し手も含んだ自分たちにとって「役立つ」のなら하겠다も可だが、聞き手にとってのみ「役立つ」というのなら하겠다では言い替えにくいという母語話者もある。하겠다では聞き手の事情まで一方的に決め付けることになってしまうからであろう。

4303) 방학중인 학교 뒷동산에 갈까, 아니면 남산에 올라갈까. 됐다.  
학교 뒷동산에 올라가자. 즐기야 하겠지만 거기가 좋을거야. 됐어. 학교 뒷동산이다. 거기서 하자. 거기서 해치우자. <崔仁浩／바보들의 行進>

冬休み中の学校の裏山に行こうか、でなければ南山に登ってみるか。よし。学校の裏山に登ろう。寒いことは寒いだろうがあそこがいいだろうな。よし。学校の裏山だ。あそこでやろう。あそこでやっちまおう。

これまでのものと同様に 할것이다なら裏山を想像しながらの「いいだろう」という推量、하겠다ならいろいろな条件に基づく今・ここでの「よさそうだ」という判断だと言えそうである。以上はどれも한다でも言い替える。第三者が主体の場合に限っては、한다で言い替え得る할것이다は하겠다でも言い替えやすいという傾向があるようである。先にも見たように話し手が主体の場合はこの限りではない。

次の例のように母語話者によって言い替えの可否が異なるものもある：

4304) 그러나 창작 예술에 있어서는 거기서는 이데올로기라는 것이 있으니까 그쪽 이데올로기에 맞춰야 한다는 점이 있을 겁니다. 그 점에서는 남·북한 음악이 전혀 다르다고 보아야겠지요. <尹伊桑·장행훈／나의 음악 나의 조국>

しかし創作芸術においては、あそこではイデオロギーというものがあるからあちらのイデオロギーに合わせなければならないという点があると思います。その点では南北朝鮮の音楽はまったく異なっていると見なければならないでしょうね。

하겠다では不自然とした母語話者でも上ののような場合にしばしば하겠다が使われていると認識しているのでとりあえずここで扱っておく。한다では言い替えが可能である。

また次の例も母語話者によって答が割れる：

4305) “그게 언제니까?” “한 육년 됐어요.” “그때 아드님은 몇 살이었는데요?” “다녔으면 고등학교 졸업반이니까 —— 열아홉쯤 됐을 거요.”

<李文烈／ 사람의 아들>

「それはいつですか?」「約6年になります。」「その時息子さんは何歳だったんですか。」「学校に通っていれば卒業の学年ですから19才ぐらいになつたでしょう。」

한다(ここでは했어요)でも母語話者によって異なる。

#### 4—3—2. 하겠다で言い替えにくい 할것이다

第三者が主体の場合のうち하겠다で言い替えにくいものは枚挙にいとまがない：

4306) 택시는 끝 염산에 도착했다. 아마 읍내를 출발한 지 채 30분도 경과하지 않았을 것이다. 이처럼 염산에 빨리 올 수 있다는 사실이 나는 좀처럼 믿어지지 않았다. 얼마 만에 내가 이곳의 땅을 밟아보는 셈인가. 아마 정확하게 햇수로 따져서 15년 만일 것이다. <宋榮／시작과 마지막의 만남>

「タクシーはすぐヨムサンに着いた。おそらく町を出てからまだ30分も経っていないだろう。こんなにヨムサンにはやく来れたという事が私はなかなか信じられなかった。どれくらいぶりに私はこの地を踏むことになるのだろう。おそらく正確に年数を数えて15年ぶりだろう。」

하겠다は不自然、한다は아마がなければ可とされる。「15년 만인 것 같다」(15年ぶりのようだ)のように하는것 같다は可のようである。

4307) 아내는 내가 출장 간 날 그날부터 어디론가 사라져 버렸을 것이다. 아내는 내일 저녁 내가 돌아올 것을 예측하고 잘해야 내일 모레 아침에 도착할 것이다. 다소 민망하고 부끄러워하면서 아내는 내게 나지막하게 사과를 할 것이다. <崔仁浩／他人의 房>

妻は私が出張行ったその日からどこかへ消えてしまったのであろう。妻は明日の夕方私が帰ってくるものと予測し、よくて明後日の朝到着するだろう。多少きまりが悪そうに恥ずかしがりながら妻は私にそっと謝ることだろう。

上の例も同様で、話し手が第三者に関する非現場的な事態を想像を巡らせながら語る気持ちである。当然하였다は使えない。한다も不可である。

4308) M기업의 광고부 대리 팍민수에게는 지난 일년이 무던히 바쁜 일년이었다. 아마 그의 일생에서도 과거는 물론, 미래에도 이처럼 바쁜 시기는 두 번 다시 오지 않을 것이다. <宋榮／시작과 마지막의 만남>  
M企業の広告部係長クック・ミンスにはこの1年がかなり忙しい1年であった。おそらく彼の一生でも、過去は勿論、未来にもこれほど忙しい時期は二度と来ないであろう。

この할것이다も第三者のことを想像して客観主義的に語る気持ちである。하였다・한다とも不自然とされる。以下も同様である：

4309) 이제 얼마 안 있으면 그이가 올 거예요. 오자마자 뽀뽀해 주고 꼭 껴안으며 그이는 말할 거예요. “착한 우리 아내, 벌써 8개월이 지났잖아. 기다림 속에 행복이 있다구! 빨리 세월이 가도록 열심히 사랑하자!”라고 말하며 환한 웃음을 지을 거예요. <임국희·최양목／바구니에 가득 찬 행복 1>

もういくらもせずに彼が帰ってきます。帰ってくるやいなやキスをしてくれてひしと抱きながら彼は言うでしょう。「我がよき妻よ、もう8か月になつたじゃないか。待つことの中に幸福があるんだ。はやく歳月が経つよ

うに一所懸命に愛そう。」と言しながら明るい笑みを作りましょう。

4310) 나는 당장 그 사람을 설득시킨다는 건 불가능하다는 걸 깨달았다. 그는 상대방이 장난질을 치고 있다고 확신하고 있었다. 그런 사람을 설득한다는 건 부질없는 짓이었다. 우선 내 자신 자립능력부터 갖춰야 하고 그러자면 대학을 마칠 때까지 참고 기다려야 한다. 그때가 되면 내 말을 받아들이는 복수의 태도가 달라질 것이다. <宋榮／시작과 마지막의 만남>

私はすぐ彼を説得するのは不可能だということを悟った。彼は相手がいたずらをしているのだと確信していた。そんな人を説得するのは無駄なことだ。何よりも私自身が自立能力を持たねばならないし、そのためには大学を終えるまで我慢して待たねばならない。その時になったら私の言うことを受け入れる大工の態度が変わってくるだろう。

4311) “아버지, 아버지가 이걸 팔아버리면 할아버지 혼백은 저승에 못 가고 이 들판을 해배 다니실 겁니다. 아버지! 할아버길 여한 없이 저승으로 가시게 합시다.” <朱東雲／암소님의 주검>

「父さん、父さんがこれを売ってしまったらおじいさんの魂はあの世に行けないのでこの野をさまよい回りますよ。父さん！ おじいさんを思い残すことなくあの世に行けるようにしてあげましょうよ。」

4312) 그이는 아가를 가슴에 안고 전 가방에 먹을 것을 잔뜩 넣고 그이곁에 꼭 붙어 다녔습니다. 얼마나 즐거웠는지 아무도 모를 겁니다. 세상에 부러운 게 없었고 행복하기만 했습니다. <임국희·최양목／바구니에 가득 찬 행복 1>

彼は子供を胸に抱いて私はバッグに食べるものをいっぱいに詰め、彼の脇にびつたりとついて歩きました。どんなに楽しかったことか誰にもわからないことでしょう。世の中にうらやましいものなどなかつたし、ただただ幸せだったのでした。

上は用言が 모르다の例である。前にも触れたように알다・모르다の 하겠다形の場合には第三者が主体になることはできない。第三者を主体にするには 할것이다が用いられるのである。なお、하고있다にして「알고있겠다」などのようにすれば알다・모르다でも可能である。

以下は하겠다は不自然だが한다なら良いとされるものである：

4313) “그려나 선생께서 수술을 반대하는 이유를 나는 이해할 수 없는 데요……” “수술을 해서 몸이 회복된다면 내 아내는 더 불행해질 거예요! 그리고 나도……” “아니; 불행해지다니……건강해야 더 벌어서 아이들도 편하게……” “흥! 내 처가 가족을 위해서 수술을 원하는 줄 아십니까?” <車凡錫／성난 機械>

「しかしながら手術に反対なさる理由が私にはわからないのですが……」「手術をして体が回復すると私の妻はもっと不幸になるでしょう。そして私も……」「え、不幸になるって……健康であってこそもっと稼いで子供たちも楽に……」「ふん！ 妻が家族のために手術を望んでいるとお思いですか？」

4314) “너희는 이웃을 사랑하라. 그러면 이웃도 너를 사랑할 것이다.”

<李文烈／ 사람의 아들>

「お前たちは隣人を愛せ。そうすれば隣人もお前を愛するであろう。」

前提条件のところでも触れたごとく、上のようにまず聞き手に命令しておいてからそうすれば何々だと語る際には하겠다は用いにくい。命令するやいなや、既に想像された非現場的空間へと聞き手が移行するからである。이웃도を抜いて하겠다にすると「愛する」のは話し手になってしまう。하겠다は常にその発話が話し手のものであるということを頭在化させるのである。한다なら一定の条件では常に、あるいは一般的にそうだと言うのであるから命令文の後でも構わないわけである。

4315) “6시 정각에 종로에 있는 보신각 뒤로 나와라. 뒷골목에 목마라

는 다양이 하나 있을 거다. 거기서 만나는 거다.” <金聖鍾／悲恋의 火印>

「6時ちょうどに鍊路にある普信閣の裏へ来い。裏通りに木馬という喫茶店が一軒ある。そこで会うんだ。」

上の例は電話で話し手が聞き手に指示する場面である。「普信閣の裏へ来い」と聞き手に指示しておいて現場外のありさまを客観主義的に描き出しながら語っているわけで、発話の現場内での「있겠다」(ありそうだ)という将然判断ではいかにもそぐわないことがよくわかる。「普信閣の裏へ来い」という発話によって聞き手は普信閣の裏へと移行する。しかし하겠다にすると話し手が普信閣のあたりにいることになってしまふ。それゆえここは하겠다ではそぐわないでのある。前の例と同様、客観主義的な語り口の 할것이다では特に現れていないかった話し手が하겠다になったために今、ここにいるものとして頭在化することにも注意したい。한다(ここでは 있다)なら一般的な事実としてそこにあると確言することになる。

4316) “그럼 동베를린 사건 이후의 작품 활동을 말씀해 주십시오.” “그 후 독일로 돌아와 처음에는 한부르크 대학에서 작품을 강의했지요. 1970년 일 겁니다. 1971년부터는 서베를린 음악 대학에서 작품을 강의했고 얼마후 정교수가 돼 오늘에 이르고 있읍니다.” <尹伊桑·장행훈／나의 음악 나의 조국>

「では東ベルリン事件以降の作曲活動をお話しください。」「その後ドイツに帰って来て初めはハンブルク大学で作曲を講義しました。1970年だと思います。1971年からは西ベルリン音楽大学で作曲を講義し、しばらく後教授になって今日に至っています。」

頭の中で思い浮かべながら「たぶん……でしょう」と推量しているわけであってここでも하겠다は使えそうにないことがわかる。하겠다・했겠다とも不自然とされる。過去のことであっても「1970년 일 것이다」(1970년だと思う)と過去接尾辞を付けなくともよいし、「1970년이었을 것이다」

(1970年だったと思う)と過去接尾辞を付けてもよいのは日本語に照らしあわせて面白い。한다 (ここでは-입니다)・했다 (ここでは-이었읍니다)とも可である。

次に過去接尾辞を持つ例を見てみる:

4317) “미스 정, 접수부 봄 찾아 봐요.” “있어요. 김인숙, 아까 그 환자예요. 폐 수술을 부탁한……” “맞습니다. 폐를 수술해 달라고 왔었을 겁니다.” “아……그래요.” <車凡錫／성난 機械>

「チョンさん、受付簿を見てみて。」「あります。キム・イノク、さっきのあの患者さんです。肺の手術を頼んだ……」「そうです。肺の手術をしてくれと来たと思います。」「あ……そうですね。」

4318) “자네 아버지와 어머님이 폭이나 기뻐하시겠군……그래 함께 나려왔나?” “네, 지금 저 뒷뜰에서 북장(北懲)을 당그고 있나 봐요.” “북장을 당취? 아니, 양반집 마님이 그런 일을 할 줄 알다니?” “글쎄요……아마 해보지는 못했을 겁니다. 학교 다닐 때에 이론으로는 배웠다고 하지만 이론과 실제는 만판이니깐요.” <金松／雛鶏>

「君のお父さんとお母さんがさぞかし喜んでおいでだろうね……で、一緒に帰郷したのかね?」「はい、今あの裏庭で味噌を作ってるようです。」「味噌を作る?あれ、両班のうちの娘さんがそんなことできるのかね。」「そうですね……たぶんやったことはないと思いますよ。学校に通ってるころ理論としては習ったって言うけれど理論と実際は違いますからね。」

4319) “김씨는 민씨를 상전 모시듯 했으니까요. 이런 데까지 와서도 선생님, 선생님 하며, 칠대로 김씨는 그를 죽이지 않았을 거예요.” <李文烈／ 사람의 아들>

「金さんは閔さんを主人にでも仕えるかのようにしてましたからね。こんなところに来てまで先生、先生、と言って。絶対に金さんは彼を殺していないと思いますよ。」

4320) 영애는 어미니의 명령이 떨어지면 눈깜짝할 사이에 마당에서 자취를 감취 버리곤 했다. 그때까지 나는 끌방 안에서 작은 창을 통해 이 조그만 연인을 넋을 잃고 바라보고 있었다. 아마 이 순간이 그때 나에게 유일한 즐거움이었을 것이다. <宋榮／ 시작과 마지막의 만남>

ヨンエは母親の命令が下るやあつという間に庭から姿を消してしまうのだった。その時まで私は脇部屋の中からちっぽけな窓を通してこの小さな恋人を魂を失ったように眺めていた。おそらくこの瞬間があの時の私には唯一の楽しみだったろう。

どれも発話の現場から離れた事態を話し手が推量しているわけである。話し手が前面に出ることを押された、客観主義的な語り口も特徴的であると言ってよい。

#### 4—3—3. 主体が第三者の場合の 할것이다のムード

主体が第三者の場合にも、やはり 할것이다は発話の現場から離れた事態を推し量って客観主義的に語るという対事態モダリティで一貫していると見てよい。対聞き手モダリティの点では、対話の文であれば聞き手に説得するように、そして言い聞かせるように語る場合が多いと言える。

#### 4—4. 할것이다のムード

以上の考察を通してこれまで漠然と<推量>の名で呼ばれてきた 할것이다が実際はいったいどのようなムードなのかを総括するところまで來た。

今・こここの発話の現場にいない主体の姿を対象化し想像の上で展開して述べるという対事態モダリティにおける働きにおいて、主体の如何にかかわらずすべての 할것이다は一貫している。主体に関する非現場的事態を蓋然的なものとして推し量って述べる推量のムードである。対聞き手モダリティにおいては、過去接尾辞がなくかつ意志動詞が用いられ主体が話し手の場合は、聞き手に意志を表明する働きを持ちうる。また対話の文においては一般に聞き手に対して今・ここで確認できない事態を投げかけ、説明や説得をしたり言い聞かせたりするという働きを持つことが多い。話し手

を顕在化させず客観主義的に述べるのも特徴的である。

こうして、どのような条件のもとであれ常に事態を推量するという性格を有するのであるから、 할것이다なる用言形式は朝鮮語における<推量>もしくは<蓋然推量>のムード形式として規定し得るのである。

以上のような 할것이다のムードは、 하겠다が話し手を顕在化させながらの、どこまでも今・ここでの発話の現場における<sup>(22)</sup>将然判断であるのに好対照をなしている。

かくして例え次のような 할것이다においては、話し手が話し手みずからと聞き手を発話の現場でない外の世界で会わせながら、そのことは私の勝手な思いではないのだと、話し手を顕在化せず客観主義的に述べているのだということ、話し手は聞き手にそうした事態を投げかけ、何ごとかを言い聞かせるように、あるいは訴えるように語っているであろうこと、 하겠다では言い替えにくいであろうこと……等々を我々は理解できるのである。<推量>とただ漠然と名付けるのではなく、こうした 할것이다がいったい話し手のいかなる態度を示しているのかについて本稿はいさかでも近づいたと信ずるのである：

4401) 나를 슬픈 눈빛으로 보지 말아 다오. 우리는 곧 만나게 될 것이다. ——1975年5月、獄中에서 <金芝河／良心宣言>  
私を悲しいまなざしで見ないでくれたまえ。我々はすぐに会うことになるだろう。——1975年5月、獄中で

## 5. おわりに

### 5-1. 要約

本稿で述べたところを要約しておく。

まず第0章で研究の目的と対象、方法と資料について述べ、いくつかの問題を設定した。 할것이다は 하겠다の研究と共に現代朝鮮語のムードの研究の重要な骨格の一つをなすものである。また、多くの具体的な言語事実、それも 할것이다が用いられた一文のみならずその文が現れたテクストの後の文脈までをも具体的に検討することから出発するのが本稿の方法論的

特徴である。

第1章では先行諸研究に触れ、 하겠다の研究で有効であったモダリティとムードの考え方の概略を本稿の前提になるものとして確認した。特に事態に対する話し手の態度を示す<対事態モダリティ>と聞き手に対する話し手の態度を示す<対聞き手モダリティ>という観点は、モダリティ・ムードの研究にとって重要である。

第2章では 할것이다の実現のしかたをいくつかの角度から検討した。まず発話の前提条件から見るとき、 할것이다には頗著な特徴が認められた。即ち、 하겠다が今・ここでの発話の現場における体験や情報を契機としてなされる判断であるのに対し、 할것이다は話し手の想像の中でつむぎだされた状況をもとにしてなされることが多いのであった。特に、<……すれば……するだろう>とか、<……ならば……だろう>という、いわば<条件推量>とも言うべき発話は 할것이다の文の一つの典型として認めてよい。そのことは接続形Ⅱ-면 (<……すれば；……ならば>) の共起の頻度の高さという事実にはっきりと現れている。テクストによっては27.0%の 할것이다がⅡ-면と共起しているほどであった。

モダリティ・ムードの研究では<事態の主体は話し手か、聞き手か、それとも第三者か>に着眼するのが分析を正確にする方法として有益である。そこで次に事態の主体を調べた。 할것이다には聞き手が主体のものが極めて少なく第三者が主体のものが多いことがわかった。これは、話し手が主体である文が多い 하겠다と対照的である。 할것이다が推量であるとするなら首肯できる結果である。 할것이다の推量性、 하겠다の非推量性が反映されていると言ってよい。平叙文では話し手が主体の時のいわゆる意志を表しうる点では 하겠다と同様であった。

また用言の品詞・語彙的な種類によって 할것이다の意味が大きく変わることはないことがわかった。どんな用言でも 할것이다には常に推量としての意味が保たれている。

過去接尾辞Ⅲ-ㅆ-を持った 했을것이다という形式には単純に過去のことを推量して述べるものと、現在の事実に反することを述べる、いわゆる反実仮想とがある。この 했을것이다でも聞き手が主体のものは極めて少ない。

ようである。またⅢ-ム-が後接した 할것이었다という承接は、母語話者の意識では許されないとされることが多いにもかかわらず、しばしば用いられていることを指摘した。

副詞を観察すると아마 (おそらく)・아마도 (おそらくは)・틀림없이 (間違いない) が頻繁に 할것이다と共に起ることがわかる。〈아마……할것이다〉 (おそらく……するだろう;おそらく……だろう) という類型は朝鮮語における典型的な推量のかたちとして認めてよいであろう。

第3章では意志と疑問という角度から 할것이다のムードを考察した。いわゆる意志と呼ばれる 할것이다とそうでないものとは、はっきりと二分できるような性質のものではなく、意志を表明するという性格の濃いものから薄いものへと、なだらかに連なっていると考えるべきものである。またそうした〈意志の表明〉は対聞き手モダリティの平面に属することがらであり、対事態モダリティに属する〈推量〉とは混同すべきでないし、〈意志か推量か〉という二者択一をしてはならず、 할것이다は〈推量〉として一元的に把握できることを述べた。これらのことと図式化すれば次のようになるであろう：

意志	對聞き手モダリティ
推量	對事態モダリティ

疑問文について観察すると 할것이다の疑問文は하겠다のそれに比べ、はあるかに少ないことがわかる。하겠다には疑問文が40.3%にのぼるテクストも見られるのに対し、 할것이다では5%以下という頻度である。また하겠다では反語として実現する例が多かったのに対し 할것이다ではほとんどない。主体が話し手の場合は自問自答に用いられることが多い。主体が聞き手であれば聞き手に意志を尋ねるものになることが多い。

第4章では具体的な一つ一つの 할것이다が하겠다や한다で言い替えるこ

とができるかということを整理しながら他の用言諸形式との対立のうちで 할것이다がどのようなムードなのかを最終的に明らかにしようとした。ここでも主体が話し手・聞き手・第三者のそれぞれの場合を細かく検討した。

単独の文だけでなく前後のテクストまで考えると 하겠다や한다で言い替え得るものは少ない。総じて、今・こここの発話の現場にいない主体の姿を対象化し、想像を展開させながら推し量って述べるという、対事態モダリティにおける働きにおいて、すべての 할것이다は一貫している。主体に関する非現場的事態を推し量って述べる推量のムード、これがすべての 할것이다に共通したムードである。これまで漠然と「推量」の名で呼ばれてきたのはこのようなムードだったのである。対聞き手モダリティにおいては聞き手に意志を表明する働きを持つことがあると同時に、特に対話の文においては聞き手に対して今・ここで確認できない事態を投げかけ、説明・説得をしたり言い聞かせるように語ったりするという働きを持つことが多い。話し手を顕在化させない客観主義的な語り口も大きな特徴である。

할것이다のムードが以上のようなものであるのに対し、 하겠다はどこまでも今・こここの発話の現場における専然的で切迫した判断であり、それも当該の発話が話し手自身の主観的な判断であると、話し手を顕在化させながら述べる判断なのである。할것이다の多くが하겠다で言い替えにくい理由は 할것이다・하겠다のこうしたムードの違いにあるのである。このことは一般に 할것이다には説明的な長い文が多いが하겠다には一語文・二語文というようなとっさに発せられた短い文が多いということにも現れている。

以上のような考察を通して 할것이다なる用言形式のムードを現代朝鮮語における〈推量〉のムード形式として改めて規定しうるのである。〈아마……할것이다〉 (おそらく……だろう) という典型的な類型に鑑み、また하겠다に付した〈専然判断〉という名称、한다に付した〈既然確言〉という名称に照らしあわせて、先の하겠다の研究で提起した 할것이다に対する〈蓋然推量〉という名称を本稿の最後にあらためて確認しようと思う。

## 5—2. 課題

하겠다に引き続き 할것이다についてこれまで明らかにされていなかった

点を解明してきたわけであるが、**하겠**同様、今後、終止形のみならず接続形における**할것이다**についても解明してゆかねばならない。また、現代朝鮮語におけるムードの体系がどうなっているのか、それぞれの用言形式ごとに克明な調査を経て明らかにしてゆかねばならない。多くの具体的な言語事実から積み上げて言語を明らかにしてゆくのは、労は多くとも最も言語事実に近いと信ずるのである。

(謝辞) 先の**하겠**の研究から本稿に至る過程において、河野六郎先生に貴重な教えを頂戴しました。また、千野栄一・菅野裕臣・志部昭平の諸先生方にも貴重な示唆をいただきました。そして徐尚揆・洪江旭の御夫妻、張起福氏、及び妻・権在淑に心より感謝を捧げたいと思います。

## 註

## ●第0章

- (1) 以下、「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はそれぞれ用言の第Ⅰ語基・第Ⅱ語基・第Ⅲ語基を示す。語基については河野六郎(55)・菅野裕臣(81)参照。
- (2) 以下、「連体形」・「接続形」の名称は河野六郎(55)に、品詞分類・品詞名は基本的に菅野裕臣(81)による。
- (3) 二つ以上の形が結合してある種の意味を持つものを分析的な形という。菅野裕臣(81)による。
- (4) いわば日本語の「勉強する」などの「……する」という形式に相当するいわゆる**하니**動詞のほかに、朝鮮語にはいわゆる**하니**形容詞もあるので、用言を代表させるのに「**하니**」が便利である。
- (5) 便宜上「**할 것이다**」のような分かち書きはしないことにする。韓國の正書法では「**할 것이다**」と分かち書きをするが朝鮮民主主義人民共和国(以下「共和国」と略す)の正書法では分かち書きをせず「**할 것이다**」と書かれる。以下、一つの用言形式と認めうるものは分かち書きをせず、「**할것 같다**」・「**하고 있다**」のように書くことにする。
- (6) したがって本稿は野間秀樹(88)で提起したもろもろのことがらの検証ともなるべきものである。特に本稿のすべてにわたってしばしば言及している**하겠**についてはそちらを参照のこと。
- (7) **할거지**・**할거지요**のように語尾-지・-지요のついた形式は対象から除外する。ただし**하겠**とは異なり、該当する用例は少ない。また、**할기지만**や**한겁에**等々の接続形の**할것이다**、**할거라고**や**할거라는**等々の引用の**할것이다**も対象から除外する。さまざまな他の要因を取り除き、とりあえず終止形のみでまず**할것이다**を

明らかにすべきと考えたからである。

## ●第1章

- (8) 以下、文献の1900年代の“19”は略す。(31:71)とあれば初版が1931年、ここで用いた版が1971年であることを示す。
- (9) これ以後、用例の出典は<>に入れて、<著者名／作品名>の形式で示す。作品名の後の数字は巻数を示す。1—2以降で<>のないものは作例である。用例の分かち書きは原則として原著のままする。用例の日本語訳はすべて引用者の手になるものである。用例の中に( )を用いて引用者の註を付すことがある。用例の頭に付した4桁の番号は、例えば、2305)とあれば、2—3の5番めの用例であることを示す。
- (10) ここでは概略のみを示すにとどめたのでモダリティ・ムードの詳細は野間秀樹(88)を参照のこと。

## ●第2章

- (11) 事態の<主体>と、文の成分としての<主語>とは区別している。主語といふ呼称は、どこまでも言語的表現をとったものについてのみ用いる。朝鮮語や日本語のような言語では主体が主語という形で明示されないことが多いのである。同様に、発話の担い手である<話し手>と文の人称としての<一人称>・<聞き手>と<二人称>、<第三者>と<三人称>も区別する。特にモダリティやムード、話法の研究ではこれらの区別は必須である。任洪彬(80)・菅野裕臣(86)参照。
- (12) 成善徹(79)は「**나가 오겠다**」というような孤立した文だけを扱うことの危険性を指摘していた。
- (13) 野間秀樹(88)では**하겠**のムードを、「事態が将然的なものであるという話し手の主観的な判断を、話し手を顕在化させながら発話の現場に関心をとどめつつ述べる」ものであると規定し、これを<将然判断>のムードと呼んでおいた。換言すれば、「**하겠**は、話し手を顕在化させ、事態を話し手の主観的な思いとして述べるものであり、まさにそうなる態勢にあるという、切迫した、将然的なものとして事態を染め上げる」ムードである。
- (14) このⅠ-Ⅳについて野間秀樹(88)でも触れている。
- (15) なお、ここでは分かち書きの単位を一語と仮に定めて「**할겠읍니다**」は一語文、「**찾아 보겠읍니다**」は二語文として計算してある。ただし**할것이다**は一語扱いである。一語の認定の問題は文法上の重要な問題であるが、ここで用いたのはどこまでも計量の便宜のための計算法に過ぎない。
- (16) このことは、一部の言語における「(身体を)洗う」など、いわゆる再帰的な動詞や中動態の存在を考え合わせると興味の尽きない問題である。
- (17) 主体の意志によって制御することのできる動作を表す動詞を意志動詞という。鈴木重幸(72)参照。命令形・勧誘形になりうる。これに対するものを無意志動詞という。同じ動詞が意志動詞・無意志動詞のいずれにもなることがある。野間

秀樹(88)参照。

(18) 李基用(77)・成善徹(79)で 하겠다と 아까との非共起性が指摘されている。野間秀樹(88)も参照のこと。

### ●第3章

(19) 分類における境界的な要素の意義について野間秀樹(88)では次のように述べておいた。「分類が明瞭である限りにおいて、一般に、分類における境界的な要素というものは、その要素の占める位置の曖昧さを物語っているのではない。そうした要素は、境界的な位置をむしろ確固として占めているということを示してくれているのである。そうした境界的な要素を境界的要素として明確に位置づけることこそ、分類の現実性を保証してくれるのである。」

### ●第4章

(20) 「물려 빠렸겠다」と下称形では不自然だが「물려 빠렸겠읍니다」のように上称形にすれば自然だという答えもあった。待遇法の差はとりあえず問わずにおいたけれども、このことから見ても 합니다・해요・해・한다などには明らかに待遇法的な差以外のモダリティ上の違いがあるのである。もとより本稿はこのことを論ずる場ではない。

(21) こうして見えてくると、話し手が主体の場合に限っては、成善徹(79)が、「-을 것 이다」は過去の経験に根拠をおいた推定であり、「-겠-」は経験当時、即ち現在の経験に判断の根拠をおいている推定と言ったことの有効性をある程度認めてよいようである。ただし 하겠다の方は「推定」と呼ぶべき性質のものでないことは先に論者(88)が指摘したとおりである。

(22) これまで述べたところを次頁以下に図式化しておく。

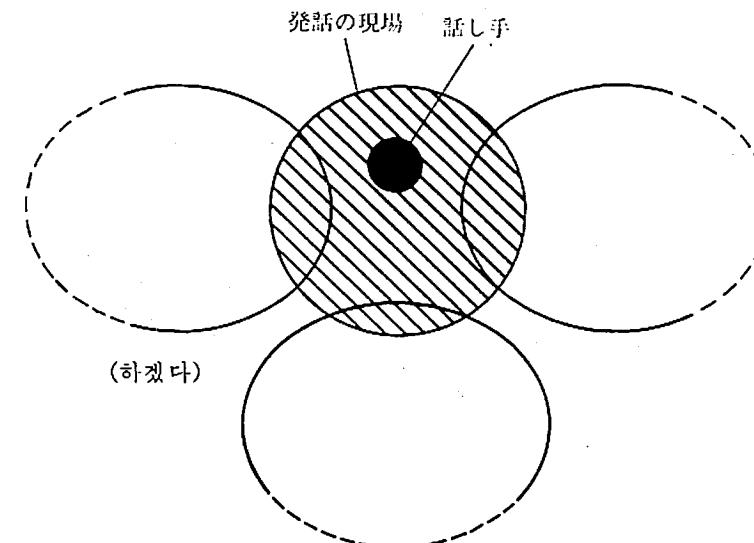
### <하겠다>

まず 하겠다の場合を示す。

図の中央の黒丸「●」は話し手の位置を示す。●を囲む中央の正円は話し手にとって<今・ここ>と認識されている発話の現場である。하겠다での発話の関心は斜線で示したこの発話の現場内にある。하겠다の発話は発話の現場における体験や情報を受け取ることによってなされるし、発話をされた時も発話の現場に話し手の関心は留まつたままである。하겠다の文の事態の主体は基本的に発話の現場に留まっているのである。

例えば「제가 가겠습니다」(私が行きます)と言えば話し手はこれから先に行きつつある「私」を語っているのではなく、今・ここでの気持ちとしてはまさに行かんと思っているのだという現場内での話し手の考えを述べているのである。「저녁 하시겠습니다」(お寂しいでしょうね)と言えば、主体である聞き手は発話の現場内にいる。今・ことと関係のない非現場的な場にいる主体を想像して語っているではないのである。今・ここで見たり聞いたりした私の体験を契機にして「お寂しいでしょうね」と述べる。そして하겠다の発話は常に話し手を頭在化させる。「저녁 하시다」(お寂しい)という判断は今・ここの私のものなのですよと、聞き手に

今・ここ



話し手を喚起させつつ述べるのである。あるいはまた「비가 오겠다」(雨が降りそうだ)と言えば、話し手は今・この現場で空を見て、あるいは手持ちの情報を見ての判断を述べているのである。

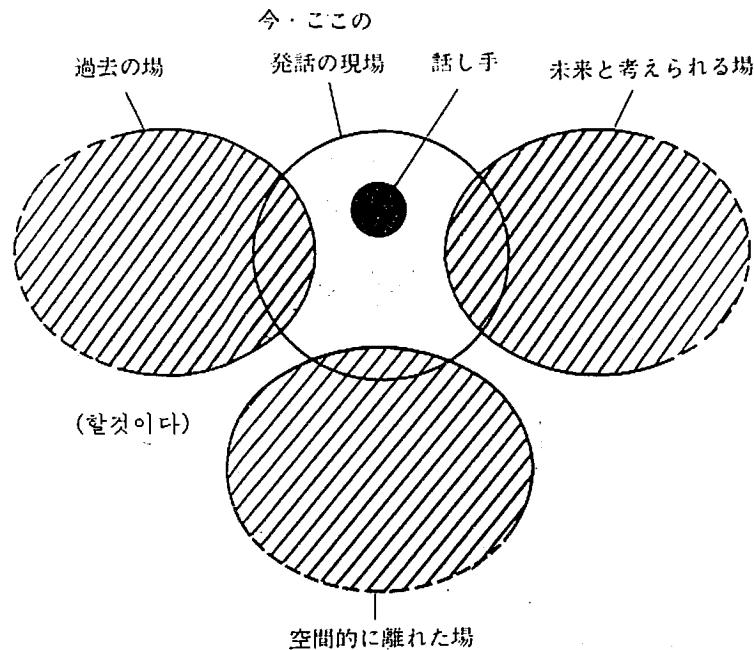
### <할것이다>

할것이다の場合である。

やはり図の中央の黒丸「●」は話し手の位置を示す。●を囲む中央の正円は話し手にとって<今・ここ>と認識されている発話の現場である。発話の現場に幾分重なる三つの楕円は、話し手にとって<今・ここ>とは認識されていない・非現場的な領域である。左の楕円は時間的な過去の場、右の楕円は時間的に未来と考えられる場、下の楕円は時間的には過去とも未来ともつかない・空間的に離れた場を示す。

할것이다は斜線で示した非現場的な場における事態を推し量って述べるものである。即ち、<今・ここ>でない・非現場的な空間に主体を想定し、対象化して、話し手を頭在化させぬまま客観主義的に展開して述べるのである。

例えば「저는 그녀를 사랑할 겠습니다」(私は彼女を愛するでしょう)と言えば、主体である「저」(私)は今・ここにいる話し手を離れて、非現場的な空間で対象化されているのである。そういう非現場的な空間の中で展開された結果を述べているがゆえに、 할것이다の発話は客観主義的な様相を帯びる。「제가 잘 갑니다」(私が行きますよ)と言えば、今まさに行かんとしている話し手のことを語っているのではなく、これから先の空間で、図では右の楕円の中に描き出された「저」(私)



という主体について語っているのである。「나라도 했을 거야」(俺だってやっただろうよ)と言えば過去の空間に話し手を移行させて語るのであって、 할것이다で語られた主体としての話し手は既に発話の現場にはいないのである。「당신은 두고 두고 후회하실 것입니다」(あなたはいつまでも後悔なさるでしょう)と言えば、主体である聞き手は、たとえ現実には発話の現場にいたとしても、既にこれから先の想像された空間の中にいる。「너희는 이웃을 사랑하라. 그러면」(お前たちには隣人を愛せ。そうすれば)と言われれば聞き手は既に今・ここを離れて発話の現場にはいなくなる。それゆえ「그리면 이웃도 너를 사랑할 것이다」(そうすれば隣人もお前を愛するであろう)と하겠다ではなく 할것이다があとを受けるのである。どこまでも非現場的な空間で展開されたことの結果を述べるものだからである。これがこれまで漠然としか認識されていなかった 할것이다の<推量>の構造である。

なお、 할것이다と하겠다で重なる部分があることに注意されたい。これは、図では便宜的に線で示したけれども、<今・ここ>と認識される領域の境界はどこまでも線的な境界ではなく、幅を持った、徐々に薄くなりながら他と重なるような、そういう性質の境界だからである。甲でなければ乙という関係ではなく、甲がいつの

まにか乙となっているような、そういう関係である。我々が言語のうちに見いだす諸々のカテゴリーもまたそうしたものであるに違いない。

## 用例を引用した資料

本稿に引いた用例は次の書からとった。著者から順。(小)は小説、(戯)は戯曲、(漫)は漫画、(対)は対談、(隨)は隨筆、(学)は学習参考書、(研)は研究書、(記)は記録・手記、をそれぞれ示す。

- 고우영 (80) “대야당 2” 어문자 (漫)
- 김경숙 (86) “피보마 길은 정” 青少年戯曲選集 1 動脈 所収 (戯)
- 김성鍾 (84) “第3의 情死” 小說文學社 (小)
- 김성鍾 (85) “悲恋의 火印” 小說文學社 (小)
- 金 松 (37; 77) “難鶴” 韓國戯曲文學体系 2 所収 韓國演劇社 (戯)
- 金淑賢 (84) “먼 빛, 그 소리” 時代, 삶의 表象 所収 教音社 (戯)
- 金周榮 (82; 85) “外村場 紀行” 해방40년의 문학 2 所収 民音社 (小)
- 金芝河 (75) “良心宣言” 金芝河全集 所収 漢陽社 (記)
- 복기원 (87) “碑名을 찾아서” 文學과 知性社 (小)
- 宋 荣 (86) “시작과 마지막의 만남” 산하 (小)
- 송효순 (82) “서울로 가는 길” 形成社 (記)
- 吳貞姬 (82; 85) “銅鏡” 해방40년의 문학 2 所収 民音社 (小)
- 우호 (86) “용이라 불리우는 사나이 2” 문화당 (漫)
- 尹伊桑·장행훈 (84) “나의 음악 나의 조국” 음악동아 84.4 東亞日報社 (対)
- 이강백 (86) “族譜” 이강백 회곡전집 3 所収 평민사 (戯)
- 이강백 (86) “호모 세파라투스” 이강백 회곡전집 3 所収 평민사 (戯)
- 李文烈 (81; 86) “사람의 아들” 民音社 (小)
- 이상락 (85) “난지도의 딸” 실천문학사 (小)
- 李容燦 (68) “帽子” 新文學60年代表作品集 6 所収 正音社 (戯)
- 李清俊 (85) “해변아리랑” 李箱文學賞受賞作品集1985 所収 文學思想社 (小)
- 임국희·최양복 위음 (78) “마구니에 가득 찬 행복 1” 전예원 (記)
- 임천우 (84; 85) “同行” 해방40년의 문학 2 所収 民音社 (小)
- 田玉柱 (86) “아들의 虚像” 青少年戯曲選集 1 動脈 所収 (戯)
- 鄭然喜 (85) “蘭芝島” 정음사 (小)
- 趙善作 (74; 85) “高壓線” 해방40년의 문학 2 所収 民音社 (小)
- 朱東雲 (86) “암소님의 주점” 青少年戯曲選集 1 動脈 所収 (戯)
- 車凡錫 (68) “성난 機械” 新文學60年代表作品集 6 所収 正音社 (戯)
- 崔仁浩 (71; 85) “他人의 房” 해방40년의 문학 2 所収 民音社 (小)
- 崔仁浩 (77) “바보들의 行進” 藝文館 (小)
- 河有祥 (68) “生活記” 新文學60年代表作品集 6 所収 正音社 (戯)

- 河有祥 (86) “슬픈 것 없이” 青少年戯曲選集 1 动脈 所収(戯)  
 洪承暉 (86) “운명의 날의 時計” 青少年戯曲選集 1 动脈 所収(戯)  
 황명기·조영남 (84) “민중의 애네르기에서 나오는 노래들” 음악동아 84.4 東  
 亜日報社(对)  
 黄哲暉 (71; 80) “客地” 創批新書 3 客地 所収 創作社 批評社(小)

## 参考文献

## (1) 日本語で書かれたもの(著者のABC順)

- 早川嘉春・他 (84-86) 「NHKハングル講座」 日本放送出版協会  
 石原六三・青山秀夫 (63) 「朝鮮語四週間」 大学書林  
 菅野裕臣 (81) 「朝鮮語の入門」 白水社  
 菅野裕臣 (82) 「朝鮮語」「講座日本語学11」 明治書院  
 菅野裕臣 (86) 「現代朝鮮語のムードの問題点について」 朝鮮語研究会発表要旨86.2  
 菅野裕臣・他 (84-86) 「月刊基礎ハングル」 三修社  
 菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕作・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人・共編・金周源・徐尚揆・浜之上幸・協力 (88) 「コスモス朝和辞典」 白水社  
 金田一春彦・編 (76) 「日本語動詞のアスペクト」 むぎ書房  
 国立国語研究所 (85) 「現代日本語動詞のアスペクトとテンス」 秀英出版  
 河野六郎 (55) 「朝鮮語」「世界言語概説下巻」 研究社  
 河野六郎 (79) 「河野六郎著作集」 1-3 平凡社  
 工藤 浩 (82) 「叙法副詞の意味と機能」「研究報告集3」 国立国語研究所  
 國廣哲彌・編 (80) 「日英語比較講座 第2巻文法」 大修館書店  
 前間恭作 (09) 「韓語通」 丸善  
 松本泰丈・編 (78) 「日本語研究の方法」 むぎ書房  
 水谷静夫・編 (83) 「朝倉日本語新講座3 文法と意味」 朝倉書店  
 森田良行 (80) 「基礎日本語2」 角川書店  
 中右 実 (80) 「文副詞の比較」「日英語比較講座 第2巻文法」 大修館書店  
 野間秀樹 (88) “<하겠다>の研究—現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって”「朝鮮学報」129 朝鮮学会  
 奥田靖雄 (84) “おしゃはかり(一)”「日本語学」84.12. 明治書院  
 奥田靖雄 (85) “おしゃはかり(二)”「日本語学」85.2. 明治書院  
 大阪外国语大学朝鮮語研究室・編 (86) 「朝鮮語大辞典」 角川書店  
 柴田紀男 (82) “インドネシア語ジャカルタ方言”「講座日本語学11」 明治書院  
 宋枝学 (57) 「基礎朝鮮語」 大学書林  
 鈴木重幸 (72) 「日本語文法・形態論」 むぎ書房

## &lt;한것이다&gt;の研究(野間)

- 天理大学朝鮮学科研究室・編 (80) 「現代朝鮮語辞典(改訂)」 養徳社  
 塚本 熊 (83) 「朝鮮語入門」 岩波書店  
 梅田博之 (76) 「韓國語！」 東京三中堂  
 梅田博之 (85) 「NHKハングル入門」 日本放送出版協会  
 梅田博之・村崎恭子 (82) “現代朝鮮語(テンス・アスペクト)”「講座日本語学11」 明治書院  
 梅田博之・村崎恭子 (82) “現代朝鮮語(モダリティー)”「講座日本語学11」 明治書院  
 山田小枝 (84) 「アスペクト論」 三修社  
 梁 吳淵 (82) 「要説 韓国語文法」 高麗書林  

(2) 朝鮮語で書かれたもの(著者の가나다順)

高永根 (65) “現代國語의 叙法體系에 對한 研究”「國語研究」15  
 高永根 (76) “現代國語의 文體法에 對한 研究”「語學研究」12  
 高永根·南基心 (83) “국어의 동사·의미론” 탐출판사  
 과학·백과사전출판사 (79) “조선문화어 문법” 과학·백과사전 출판사  
 과학원 언어 문학 연구소 (60) “조선어 문법 1” 과학원 언어 문학 연구소  
 김석득 (74) “한국어의 시상”「한글연구」1 연세대학교한글연구소  
 김종배 (82) “청대소‘겠’에 관한 연구” 영남대학교대학원석사논문  
 김자균 (81) “[을]과 [겠]의 의미”「한글」173·4 한글학회  
 趙鏡錫 (72) “우리말의 떼매김 연구” 과학사  
 南基心 (72) “現代國語 時制에 關한 問題”「국어국문학」55-7  
 南基心 (78) “國語文法의 時制問題에 關한 研究” 塔出版社  
 박옥숙 (87) “임의적 불확실성과 화자의 주관적 선택——‘겠’의 用法”「한글」198 한글학회  
 徐正洙 (77) “‘겠’에 관하여”「한글」2 연세대학교한국어학당  
 徐正洙 (78) “‘근것’에 대하여”「國語學」6 탐출판사  
 成善徹 (76) “‘-겠-’과 ‘-을 것이다-’의 의미 비교”「金亨奎教授停年退任紀念論文集」서울師範大學國語教育科  
 成善徹 (79) “經驗과 推定”「문법연구」4 탐출판사  
 신기천·신용철·현지 (74) “새 우리말 큰사전” 三省出版社  
 中昌淳 (72) “現代韓國語의 用言補助語幹‘겠’의 意義와 用法”「朝鮮学報」65 朝鮮学会  
 安田吉実·孫洛範·共編 (83) “民衆옛센스 韓日辭典” 民衆書林  
 池谷幸利 (78) “現代韓國語의 動詞分類”「朝鮮学報」87 朝鮮学会  
 이경애 (84) “‘겠’의 의미”「국어국문학」22  
 李基文 (72) “國語史概説 改訂版” 塔出版社  
 李基用 (77) “침작의 뜻:‘겠’과 ‘을 것’을 中心으로” 활동 연구발표 논문

## 요지 ॥ 한글학회

- 李基用 (78) “‘겠’의 重義性 反論” 국어 학회 발표  
 李基用 (78) “言語와 推定” 「國語學」 6 말출판사  
 李南淳 (81) “‘겠’과 ‘을 것’” 「冠嶽語文研究」  
 이선경 (86) “서법과 인술행위적 한정 작용——‘겠’과 ‘을 것이’·를 중심으로” 「한글」 193  
 李翊燮·任洪彬 (83) “國語文法論” 學研社  
 李廷玟 (75) “言語行為에 있어서의 様相構造” 「現代國語文法」 啓明大學校出版部  
 李熙昇·편지 (82) “국어 대사전” 민중서림  
 임홍민 (80) “[겠-] 과 대상성” 「한글」 170 한글학회  
 張京姬 (85) “現代國語의 様態範疇研究” 塔出版社  
 장관식·김준희 (83) “조선어 토지식” 赤龍강조선인 출판사  
 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 언어 문학 연구소 사전 연구실 (62) “조선 말 사전” 과학원 출판사  
 최윤갑·리세동·편지 (84) “조선어 학사전” 연변인민 출판사  
 최현배 (37; 71) “우리말본” (네 번째 고침) 경음사  
 Koncevich, L. R. (71) 菅野裕臣·訳 “蘇聯의 韓國語學” 「亞細亞研究」 71. 6.  
 高麗大學校 亞細亞問題研究所

## ( 3 ) その他の言語で書かれたもの

- 北京大学東語系朝鮮語專業·延辺大学朝語系朝鮮語專業·合編 (76) “朝鮮語實用語法” 商務印書館, 北京  
 李廷玟 (73) “The Korean Modality in the Speech Act” ‘Papers in Linguistics’ 1-2, University of Michigan  
 Nam, Won-Sik (83) “Inflectional Suffixes in Korean Verbs” ‘언어’ 83.2  
 Palmer, F. R. (79) “Modality and the English Modals” Longman  
 Xolodovich, A. A. (54) “Ocherk grammatiki korejskogo jazyka”, Moskva

(神田外語大学非常勤講師・170 東京都豊島区駒飼3-9-11, B-41)